
帝京平成大学薬学部年報

Annual Report of Faculty of Pharmaceutical Sciences

2024



帝京平成大学薬学部
Faculty of Pharmaceutical Sciences
Teikyo Heisei University

「帝京平成大学薬学部年報 2024」発刊にあたって

帝京平成大学薬学部は、2004年の設立以来、薬学教育の充実と社会への貢献を使命として歩みを進めて参りました。2013年の中野キャンパスへの移転によって学部環境は大きく変化し、教育・研究・地域連携の各分野のさらなる進展につながりましたが、その後も年々変化する状況に対応すべく、改善・一層の充実を図るための取り組みを継続し、今日に至っています。

一方、薬学教育評価機構による第三者評価が2013年から開始され、本学は2018年に受審し、適合の認定を受けました。これを契機に2019年から修学状況や薬学部各委員会活動等をまとめた年報を作成し、自己点検・評価の基軸としてきました。

2024年度は、薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に伴い、本学部でも教育課程の抜本的な見直しを行い、教育の質的向上に向けた改革を開始した一年となりました。また、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー、アセスメント・ポリシーの四つの教育方針を改定し、能動的学修を積極的に取り入れた体系的カリキュラムの構築と学修成果の可視化を図りました。また、自己点検・評価体制の強化のために薬学部 IR 委員会を設立し、教学データの収集・分析を通じて、教育プログラムの改善を進めることとしました。

本年報は、本学部の教育・研究・社会貢献の取り組みを総括し、次なる発展への礎とするものです。充実した自己点検・評価を実施し、教育プログラムのさらなる改善・発展を図り、建学の精神である「実学の精神」に基づいた広範な知識と専門的な実践力を備えた薬剤師の育成に尽力する所存です。

帝京平成大学薬学部長 亀井 美和子

目 次

第1章 薬学部薬学科	1
1. 教育方針	1
(1) 帝京平成大学の教育方針	1
(2) 薬学部の教育研究上の目的	2
(3) 四つのポリシー	2
2. 薬学部の運営組織	7
(1) 薬学部運営組織図	7
(2) 薬学部部門・ユニット編成	8
(3) 薬学部教員	9
(4) 学年担任	10
3. 教育活動	11
(1) 開講科目	11
(2) 在籍者数	18
(3) 学籍異動	19
(4) 卒業者数	20
(5) 入学者数	21
(6) 学年暦	22
(7) 教育行事	24
1) 早期体験学習	24
2) 共用試験	26
3) 実務実習成果報告会	27
4) 卒業研究発表会	28
5) 薬剤師国家試験	36
6) 薬学業界セミナー	37
7) オレンジバルーンフェスタ (OBF)	38
8) 薬物乱用防止キャンペーン	40
9) 卒後教育	41
(8) その他の行事	42
1) 父母等対象説明会	42
2) 公開講座	43
3) FD/SD活動	44
4) 総合防災訓練	46

5) 実務実習全体説明会	48
4. 研究活動	49
(1) 研究発表	49
(2) 語る会 (研究交流会)	50
第2章 大学院薬学研究科	51
1. 教育活動	51
(1) 研究科教員	51
(2) 入学者数・修了者数・学位授与者数	51
(3) 在籍者数	51
(4) 学年歴	51
(5) 学位授与論文題目等	51
第3章 薬学部運営組織の活動	52
1. 担当会議	52
2. 運営会議	52
3. 委員会活動	60
(1) 薬学部教務委員会	60
(2) カリキュラム委員会	65
(3) 薬学部学生委員会	66
(4) 薬学部就職委員会	69
(5) 研究運営委員会	71
(6) 薬学部広報委員会	72
(7) 薬学部自己点検委員会	75
(8) C B T委員会	78
(9) O S C E委員会	80
(10) 事前学習委員会	82
(11) 実務実習委員会	84
(12) 卒業研究委員会	86
(13) 薬学部FD企画委員会	88
(14) 習熟度確認試験 (実力試験) 委員会	89
(15) セミナー委員会	90
(16) 薬剤師国家試験委員会	92
(17) 薬学教育研究センター運営委員会	94
(18) 学修サポート委員会	95

(19) 社会薬学教育研究センター運営委員会	96
(20) 薬育・地域連携委員会	97
(21) 薬学臨床教育研究センター運営委員会	99
(22) 薬学部 I R 委員会	101
(23) 研究安全委員会	102

第1章 薬学部薬学科

1. 教育方針

(1) 帝京平成大学の教育方針

帝京平成大学の建学の精神

実学の精神を基とし
幅広い知識と
専門分野における
実践能力を身につけ
創造力豊かな逞しい
人間愛にあふれた
人材を養成する

帝京平成大学の基本理念

1. 人文・社会科学と自然科学に均整のとれた教養教育を通して人間愛を培い、広聴心を涵養し、専門的能力を人類の幸福・福祉のための的確に適用できる健全な人格を養成する。
2. 自立と不撓不屈の精神を養い、実学的に幅広く高度な専門知識と学際的な問題解決能力を備え、創造性に富む人材を育成する。
3. 専門の学術を深く研究して成果を世界的に発信するとともに、大学の人材、施設を活用して地域社会との交流と貢献に努め、人類の発展に寄与する。

帝京平成大学の使命・目的

帝京平成大学は建学の精神に則り、広く知識を授け人格の陶冶を図るとともに、深く専門の学術を教授・研究し、国際的視野に立って日本国の発展に貢献できる有為な人材を養成することを目的とする。

(2) 薬学部の教育研究上の目的

薬学部薬学科は、本学の建学の精神に則り、医療人としての使命感、および社会への広い視野を備え、薬物療法の専門職として人と社会に貢献できる薬剤師を養成する。

(3) 四つのポリシー

2024年度入学生から、薬学教育コアカリキュラムの改訂に伴って四つのポリシーを大幅に改定した。卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）及び教育検証・評価の方針（アセスメント・ポリシー）は、以下のとおりである。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人材育成目標（卒業生が身に付けるべき資質・能力）

薬学部薬学科では、建学の精神及び大学の目的に則り、豊かな人間性と高い倫理観を備え、薬学にかかわる幅広い知識・技能を修得し、健康に係る問題を解決するため、患者・生活者中心という視点から他の医療職とコミュニケーションをとり、薬物療法の専門職として連携・協働できる人材を育成する。

所定の授業科目および192単位以上を修得した者で、下記のプログラムの到達目標に示された能力を有すると認められた者に、学士（薬学）の学位を授与する。

プログラムの到達目標（目標としての学修成果）

1. 知識・理解

- ① 自然並びに人間社会・文化に対する理解を深めている。
- ② 医療や健康の維持増進に必要な基礎薬学の知識を修得している。
- ③ 薬物治療に必要な医療薬学の知識を修得している。
- ④ 健康の維持増進に必要な衛生薬学の知識を修得している。
- ⑤ 医療の実践に必要な臨床薬学の知識を修得している。
- ⑥ 医療・介護・福祉に関する倫理や法制度を理解している。
- ⑦ 情報・科学技術に関する倫理や法制度を理解している。

2. 当該分野固有の能力

- ① 代表的な症例を解析し、評価するとともに、問題点を挙げ適切な薬物治療を提案できる。
- ② 調剤、医薬品情報の収集及び服薬指導を実践できる。
- ③ 薬学的知見に基づいて、地域住民の健康を支援することができる。
- ④ セルフメディケーションを支援することができる。

3. 汎用的能力

- ① 自ら様々な問題を発見し、専門的知識や調査・研究技術を駆使して分析、考察した上で、問題解決の手段を提案できる。
- ② 他者の主張を理解することに努め、自分の考えを論理的に説明することや発表することができ、かつ他者と討論ができる。
- ③ 日本語による論理的な記述ができる。
- ④ 英文資料を活用できる。

4. 態度・姿勢

- ① 生涯にわたって情報収集や研鑽を継続し、最良の薬物治療や地域住民の健康の維持増進に貢献する姿勢を備えている。
- ② 医療人として必要とされる責任感と高い倫理観を有し、地域住民の健康に貢献する態度を備えている。
- ③ 患者や医療スタッフと適切なコミュニケーションを取り、多職種連携を実践する姿勢を備えている。
- ④ 常に患者のQOL向上を意識する姿勢を備えている。
- ⑤ 薬物治療において、有効性の判断や、重篤な副作用を回避するために、自ら患者の状態や検査を経時的に評価する姿勢を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

カリキュラム編成

本プログラムは、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に適合した人材を育成するために、教養系科目、語学科目、薬学専門科目、演習科目、実習科目、薬学研究を順次性に配慮して体系的に編成している。1年前期には薬学準備教育を配置して、1年後期からの薬学専門科目を無理なく学修することができるように配慮している。また、薬学専門領域の知識・理解の修得に合わせて症例解析演習などの演習科目を配置し、修得した知識・理解を活用できる能力を醸成していく。さらに、1年次から各学年にセミナー科目を配置し、関連科目と合わせて薬剤師としての人間性・社会性を育むとともに、医療現場や遠隔地を含む地域医療における薬剤師の基盤を修得していく。セミナー科目では、同時に傾聴、自分の考えを説明する能力、発表する能力、コミュニケーション能力なども醸成していく。1年次から各学年には薬学研究も配置し、問題発見・解決能力、研究内容を論理的にまとめる能力、発表する能力、コミュニケーション能力などを醸成する。

学修内容・方法

- ① 自然・人間社会・文化への広い視野と理解を深めるために、一般教養系科目を配置する。
- ② 薬学専門科目へと無理なく学修を進めることができるように、1年前期に薬学準備教育を配置する。
- ③ 確かな専門知識と技能の修得するために、講義科目に加えて、演習科目や実習科目を配置する。
- ④ 医療・介護・福祉に関する倫理や法制度の理解を深めるために、授業科目を配置する。
- ⑤ 先端技術、情報・科学技術に関する倫理や法制度の理解を深めるために、授業科目を配置する。
- ⑥ コミュニケーション能力を身に付けるために、演習科目や実習科目を配置する。
- ⑦ 健康の維持増進に貢献する能力を身に付けるために、講義科目に加えて、演習科目や実習科目を配置する。
- ⑧ 多職種連携を実践する能力や薬物治療の実践的能力を身に付けるために、講義科目に加えて、演習科目や実習科目を配置する。
- ⑨ 地域医療の重要性を理解するために、講義科目に加えて、演習科目を配置する。
- ⑩ 生涯にわたって情報収集や研鑽をする習慣を身に付け、かつ自ら様々な問題を発見し、調査・分析して問題解決の手段を提案できる能力を醸成するために、1年次からすべての学年に薬学研究を配置する。
- ⑪ 演習科目、実習科目及び薬学研究以外の知識・理解を深めるための科目は、主に講義形式で行う。
- ⑫ 主体性、姿勢、傾聴力、協働性を醸成する演習科目は、自己学習や少人数の討論に発表を組み合わせた能動学習で行う。

学修成果の評価方法

- ① 知識・理解の評価は、主に筆記試験により行う。
- ② 当該分野固有の能力に関しては、筆記試験、観察評価、技能評価により行う。
- ③ 汎用的能力に関しては、観察評価、技能評価により行う。
- ④ 態度・姿勢に関しては、観察評価、技能評価により行う。
- ⑤ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の達成度は、各科目の寄与度を設定し、1年次より総合的に評価する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

薬学部薬学科では、次のような学生を求めている。

- ① 薬学を学修するために必要となる基礎的・基本的な学力を身につけている人
- ② 多様な人々と協働して学ぶ姿勢を有している人
- ③ 良き医療人になるための意欲と行動力を有している人
- ④ 薬学の専門的知識の修得及び多様な知識の修得を目指す意欲と、医療・薬学における様々な問題を解決するための科学的探究心を有している人

入学者選抜の基本方針

【求める学生像】に示した知識・能力等を備えているかどうかを判定するために、「知識、技能」、「思考力、判断力、表現力など」、「主体性、多様性、協働性」を以下のような選抜方法において評価する。

総合型選抜Ⅰ期・Ⅱ期

基礎能力検査により、基礎学力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書、志望理由書および英語外部試験成績を総合して評価する。

学校推薦型選抜／公募制

基礎能力検査により、基礎学力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書、推薦書および英語外部試験成績を総合して評価する。

一般選抜

学力試験により、基礎学力および思考力、判断力、表現力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書および英語外部試験成績を総合して評価する。

大学入学共通テスト利用選抜

大学入学共通テストにより、基礎学力および思考力、判断力、表現力を評価する。これらと調査書および英語外部試験成績を総合して評価する。

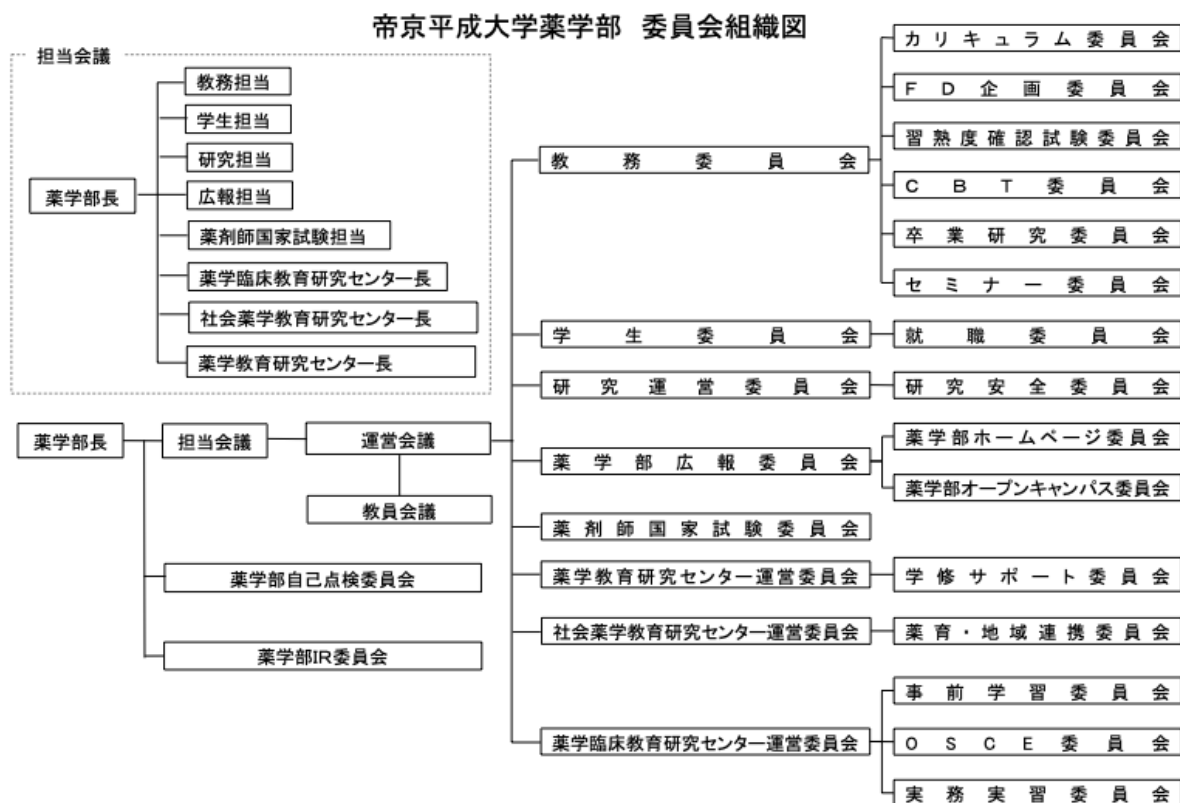
教育検証・評価の方針（アセスメント・ポリシー）

帝京平成大学のアセスメント・ポリシーに則り、薬学部の教育課程が、教育研究の目的や卒業認定・学位授与の方針に示されたプログラムの到達目標（知識・理解、当該分野固有の能力、汎用的能力、態度・姿勢）を醸成するため適切に編成・実施されているか、以下の方針に従って検証・評価する。

- ①成績評価が、シラバスに記載された評価基準と方法によって、客観的かつ厳格に行われているか、試験問題や成績とその分布を基に検証・評価する。
- ②授業科目の到達目標とプログラムの到達目標との関連性に留意し、知識・理解、当該分野固有の能力、汎用的能力、態度・姿勢が、それぞれ適切な方法で、かつ適切な評価基準で評価されているか検証する。
- ③プログラムの到達目標に関する、各学年や卒業時における総合的達成度は、以下の方法によって評価する。
 - (1) 知識領域の学修を中心とする科目については、総合的な達成度を、成績水準やGPAを基準として算定する。なお、算定に当たっては、科目が関連するプログラムの到達目標への寄与率と単位数による重みづけを行う。
 - (2) 技能・態度領域の学修を中心とする科目については、総合的な学修成果を測る指標とルーブリックによる基準を設け、達成度を評価する。
- ④学修行動と学修成果の調査は、教育・研究上の目的、及び卒業認定・学位授与方針に示されたプログラムの到達目標に関する達成度の指標として検証・評価に用いる。
- ⑤進級や卒業に係る学内試験の成績に加え、薬学共用試験、薬剤師国家試験など外部試験の結果は、教育課程の有効性や妥当性を測る客観指標として検証・評価に用いる。

2. 薬学部の運営組織

(1) 薬学部運営組織図



(2) 薬学部部門・ユニット編成

部門名	ユニット名	所属教員
細胞機能教育研究部門	細胞生化学	大西 敦、後藤 芳邦、青木 一真
	膜機能	矢ノ下 良平、中谷 良人、池本 守、小川 裕子
	分子細胞制御	高橋 美樹子、八代田 英樹、金 憲誠
	遺伝子機能解析	小林 秀昭
生体防御教育研究部門	生体防御	斎藤 浩美、磯田 勝広、西川 毅、大野 まき
	抗体 DDS	平 裕一郎、平 郁子、清水 芳実
	タンパク質科学	西村 千秋
医薬品機能教育研究部門	薬物動態学	水間 俊、濱田 和真、中埜 貴文
	薬理学	清水 俊一、吉田 卓史、戸田 雄大、建部 卓也
	薬物治療学	秋山 晴代、栗坂 知里
	生理・病態学	石井 正和、山元 健太、山本 伸一郎
創薬基盤教育研究部門	創薬科学	栗原 健一、石川 和樹
	物理薬剤学	並木 徳之、渡辺 達也、山本 佳久
	薬品分析学	伊佐間 和郎、大野 賢一
	医薬有機化学	小松 俊哉、名取 威徳、赤木 祐介、岩崎 絵理佳
	天然医薬資源学	高松 智、鈴木 達彦
社会薬学教育研究センター	薬事・情報学	渡邊 伸一
	薬剤疫学	宮崎 生子、野村 香織
	医薬統計学	高橋 秀人
	医薬品安全性評価学	濃沼 政美
	医療倫理学	菊地 真実
	薬局機能評価学	小原 道子、吉田 貴行、原田 美那
薬学臨床教育研究センター	病院薬学	島崎 学、佐村 優
	地域薬局学	井手口 直子、伊東 育己
	臨床薬物治療学	清野 敏一、栗林 和美、鈴木 正論
	治療評価学	丸山 桂司、世永 由里子
薬学教育研究センター	薬学基礎教育	鈴木 英治、八代田英樹(兼)、窪田 剛志、加藤 雅和
	医療薬学系教育	島崎 学(兼)、高崎 浩太郎
	学修支援	畑 春実、高木 彰子

(3) 薬学部教員

教授 (33名)	准教授 (17名)	講師 (11名)	助教 (6名)	助手 (2名)
亀井 美和子 (薬学部長)	秋山 晴代	青木 一真	加藤 雅和	岩崎 絵理佳
伊佐間 和郎	池本 守	赤木 祐介	栗坂 知里	原田 美那
石井 正和	磯田 勝広	石川 和樹	高木 彰子	
井手口 直子	大野 賢一	伊東 育己	建部 卓也	
大西 敦	大野 まき	金憲 誠	吉田 貴行	
小原 道子	小川 裕子	窪田 剛志	世永 由里子	
菊地 真実	後藤 芳邦	栗林 和美		
栗原 健一	佐村 優	清水 芳実		
濃沼 政美	鈴木 達彦	鈴木 正論		
小林 秀昭	平 郁子	戸田 雄大		
小松 俊哉	高崎 浩太郎	中埜 貴文		
斎藤 浩美	西川 毅			
島崎 学	野村 香織			
清水 俊一	濱田 和真			
鈴木 英治	山元 健太			
清野 敏一	山本 伸一郎			
平 裕一郎	吉田 卓史			
高橋 秀人				
高橋 美樹子				
高松 智				
中谷 良人				
名取 威徳				
並木 徳之				
西村 千秋				
畑 春実				
丸山 桂司				
水間 俊				
宮崎 生子				
八代田 英樹				
矢ノ下 良平				
山本 佳久				
渡邊 伸一				
渡辺 達也				

五十音順

(4) 学年担任

担任制度によって学生指導を行っている。4年次以降の実際の学生指導は、卒業研究の指導教員が行っている（チューター制度）。

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学年主任	渡邊 伸一	高橋 美樹子	石井 正和	渡辺 達也	清野 敏一	矢ノ下 良平 畑 春実
*担当	伊佐間 和郎 大西 敦 大野 まき 加藤 雅和 菊地 真実 栗坂 知里 栗林 和美 後藤 芳邦 小林 秀昭 佐村 優 島崎 学 鈴木 英治 平 裕一郎 戸田 雄大 水間 俊 山本 佳久	青木 一真 赤木 祐介 金 憲誠 栗原 健一 窪田 剛志 濃沼 政美 斎藤 浩美 平 郁子 高木 彰子 高崎 浩太郎 中谷 良人 名取 威徳 西川 毅 西村 千秋 宮崎 生子 吉田 貴行	池本 守 石川 和樹 井手口 直子 伊東 育己 小川 裕子 小原 道子 小松 俊哉 清水 芳実 鈴木 達彦 鈴木 正論 中埜 貴文 並木 徳之 濱田 和真 山元 健太 山本 伸一郎 吉田 卓史	磯田 勝広 野村 香織 八代田 英樹 世永 由里子	大野 賢一 高橋 秀人 丸山 桂司	秋山 晴代 清水 俊一 高松 智 建部 卓也

*1～3年の各担当教員は、担任として、1～3年複数名の学生を受け持つ

五十音順

3. 教育活動

(1) 開講科目

1年次から6年次までの開講科目を掲載した。開講期は、①前期または後期に開講される Semester 制、②学年を4分割した期間に開講されるクォーター制(1Q～4Qと表記)、③前・後期にわたる通年開講の3種類を用いている。なお、クォーター制は2017年度から薬学部において実施している。

1年次 開講科目	開講期	担当教員
英語基礎	前期	平 郁子、平 裕一郎、栗林 和美、高木 彰子
英語 I	後期	高木 彰子、平 郁子、平 裕一郎、秋山 晴代
数学基礎	前期	高橋 秀人、窪田 剛志、畑 春実
薬学数学	後期	高橋 秀人
物理学基礎	前期	渡辺 達也、大野 賢一
化学基礎	前期	鈴木 英治、小松 俊哉、栗原 健一、名取 威徳、赤木 祐介
生物学基礎	前期	金 憲誠
数学基礎演習	前期	窪田 剛志、畑 春実、石川 和樹
物理学基礎演習	前期	渡辺 達也、伊佐間 和郎、大野 賢一、加藤 雅和
化学基礎演習	前期	鈴木 英治、石川 和樹
薬学概論	前期	亀井 美和子、小原 道子、濃沼 政美、鈴木 達彦、鈴木 正論、高松 智、中谷 良人、名取 威徳、畑 春実、山本 佳久、吉田 貴行、渡邊 伸一
アカデミックスキル	前期	渡邊 伸一、原田 美那
フレッシュセミナー IA	前期	菊地 真実、井手口 直子、小原 道子、畑 春実、吉田 貴行、亀井 美和子
フレッシュセミナー IB	後期	山本 佳久、八代田 英樹、菊地 真実、石川 和樹、加藤 雅和、岩崎 絵理佳
命とこころ	後期	菊地 真実
医療心理学	後期	井手口 直子、奥井 智一郎 (人文社会学部)
薬品分析化学 I	後期	渡辺 達也
有機化学 I	後期	栗原 健一
薬用植物学・生薬学	後期	鈴木 達彦、高松 智
解剖生理学 I	後期	石井 正和
生化学 I	後期	池本 守、青木 一真

多職種連携入門	前期	濃沼 政美、中山 富子（ヒューマンケア学部）、 平川 美和子（ヒューマンケア学部）、 下山 京子（ヒューマンケア学部）、 益田 育子（ヒューマンケア学部）、 工藤 恵子（ヒューマンケア学部）、 坂田 清美（ヒューマンケア学部）、 増島 篤（人文社会学部）、芳野 純（健康メディカル学部）、 平川 美和子（健康メディカル学部）、亀井 美和子
アクティブラーニング I	後期	青木 一真、池本 守、石井 正和、渡辺 達也、鈴木 英治、窪田 剛志、大西 敦、八代田 英樹、加藤 雅和
臨床基礎実習	前期	伊東 育己、丸山 桂司、高木 彰子、島崎 学、佐村 優、 世永 由里子、吉田 貴行、栗林 和美、鈴木 正論
基礎実習 I	後期	伊佐間 和郎、高橋 美樹子、高松 智、大西 敦、平 裕一郎、 山元 健太、鈴木 達彦、大野 まき、後藤 芳邦、高木 彰子、 建部 卓也
薬学研究 I A	集中	平 裕一郎、小川 裕子、畑 春実、秋山 晴代、清水 芳実、 中埜 貴文、栗坂 知里、建部 卓也、西村 千秋

2 年次 開講科目	開講期	担当教員
フレッシュセミナーⅡA	前期	井手口 直子、清野 敏一、伊東 育己、野村 香織
フレッシュセミナーⅡB	後期	小原 道子、菊地 真実、矢ノ下 良平、大野 まき、 吉田 貴行、原田 美那
英語ⅡA	前期	平 郁子、山元 健太
英語ⅡB	後期	山元 健太、平 郁子
薬品物理化学Ⅰ	2Q	窪田 剛志
薬品物理化学Ⅱ	3Q	窪田 剛志
有機化学Ⅰ	2Q	栗原 健一
有機化学Ⅱ	3Q	小松 俊哉
有機構造解析	4Q	名取 威徳
薬品分析化学Ⅱ	1Q	大野 賢一
薬用植物学	3Q	高松 智
化学系実習Ⅰ	前期	栗原 健一、名取 威徳、渡辺 達也、西川 毅、赤木 祐介、 加藤 雅和
生体の機能調節	1Q	山元 健太
細胞生物学	4Q	八代田 英樹、清水 芳実
微生物学	4Q	斎藤 浩美
遺伝子の構造・機能	1Q	大西 敦
代謝とエネルギー産生	3Q	後藤 芳邦
生理活性物質とシグナル伝達	2Q	高橋 美樹子
生物系実習Ⅰ	前期	斎藤 浩美、高松 智、鈴木 達彦、磯田 勝広、金 憲誠、 清水 芳実
公衆衛生と健康	4Q	矢ノ下 良平
栄養と健康	前期	大野 まき
病態生理学Ⅰ	後期	小林 秀昭
薬理学Ⅰ	2Q	清水 俊一
薬理学Ⅱ	3Q	戸田 雄大、清水 俊一
薬理学Ⅲ	4Q	吉田 卓史
アロマセラピー（選択）	後期	丸山 奈保（健康メディカル学部）

3年次 開講科目	開講期	担当教員
アドバンスセミナーⅠA	前期	小原 道子、吉田 貴行、佐村 優、鈴木 正論、菊地 真実
アドバンスセミナーⅠB	後期	小原 道子、渡邊 伸一、吉田 貴行、建部 卓也、菊地 真実、原田 美那
英語Ⅲ	前期	平 郁子、大野 まき
有機化学Ⅲ	1Q	赤木 祐介
生体有機化学	3Q	名取 威徳
生薬学	2Q	鈴木 達彦、高松 智
化学系実習Ⅱ	前期	中谷 良人、小川 裕子、池本 守、濱田 和真、中埜 貴文、山本 佳久
医薬品合成化学（選択）	後期	鈴木 英治
免疫学	3Q	西川 毅
生物系実習Ⅱ	前期	高崎 浩太郎、吉田 卓史、青木 一真、戸田 雄大、建部 卓也、栗坂 知里
食品と健康	1Q	矢ノ下 良平
化学物質と健康	3Q	小川 裕子
生活環境と健康Ⅰ	2Q	中谷 良人
生活環境と健康Ⅱ	4Q	中谷 良人
サプリメント（選択）	後期	非開講
病態生理学Ⅱ	前期	石井 正和
薬理学Ⅳ	3Q	山本 伸一郎
薬物治療学Ⅰ	1Q	並木 徳之、秋山 晴代
薬物治療学Ⅱ	2Q	小林 秀昭、栗坂 知里
薬物治療学Ⅲ	4Q	高崎 浩太郎
物理薬剤学	1Q	山本 佳久
医薬品の安全性	4Q	伊東 育己
生物薬剤学	2Q	水間 俊
薬物動態解析	3Q	水間 俊
製剤学	2Q	並木 徳之
応用製剤学	4Q	濱田 和真、中埜 貴文
漢方薬	4Q	鈴木 達彦
社会保障論	1Q	野村 香織、宮崎 生子
薬事関係法規	後期	渡邊 伸一
調剤学	後期	山本 佳久

4 年次 開講科目	開講期	担当教員
英語Ⅳ	前期	平 郁子、前田 ニコラス (人文社会学部)、高木 彰子、八代田 英樹
アドバンスセミナーⅡ	前期・後期	丸山 桂司、濃沼 政美、清野 敏一、井手口 直子、栗林 和美、伊東 育己、小原 道子、亀井 美和子、宮崎 生子
地域医療と法制度	前期	小原 道子、伊東 育己、渡邊 伸一
日本薬局方	2Q	伊佐間 和郎
医薬化学	1Q	小松 俊哉
感染症と化学療法	1Q	斎藤 浩美、鈴木 正論
バイオテクノロジー	後期	磯田 勝広
薬物治療学Ⅳ	2Q	秋山 晴代
臨床検査学	2Q	島崎 学
医薬品情報学	前期	佐村 優、濃沼 政美
セルフメディケーション	後期	島崎 学
病院薬学	前期	佐村 優、鈴木 正論
医療薬学	1Q	島崎 学、佐村 優
処方解析	前期	清野 敏一
薬学臨床実習Ⅰ	前期・後期	島崎 学、濃沼 政美、清野 敏一、栗林 和美、井手口 直子、世永 由里子、伊東 育己、吉田 貴行、並木 徳之、鈴木 正論、佐村 優、丸山 桂司
卒業研究	4～6 年	全教員
病態治療統合講義Ⅰ	前期	池本 守
病態治療統合講義Ⅱ	前期	平 裕一郎
病態治療統合講義Ⅲ	後期	平 郁子
基礎薬学総合演習	後期	(物理系領域) 渡辺 達也、伊佐間 和郎 (化学系領域) 小松 俊哉、名取 威徳、高松 智、鈴木 達彦、赤木 祐介 (生物系領域) 磯田 勝広、大西 敦、西川 毅、金 憲誠、八代田 英樹 (薬理・病態・薬物治療学領域) 石井 正和、吉田 卓史、戸田 雄大、高崎 浩太郎、秋山 晴代、栗坂 知里、平 郁子、平 裕一郎、池本 守、建部 卓也、鈴木 達彦 (薬剤学領域) 中埜 貴文、並木 徳之、水間 俊、山本 佳久、濱田 和真

		<p>(衛生学領域)</p> <p>矢ノ下 良平、中谷 良人、小川 裕子、大野 まき</p> <p>(基礎・情報・法規・実務系領域)</p> <p>栗林 和美、畑 春美、宮崎 生子、島崎 学、佐村 優、丸山 桂司</p>
--	--	--

5 年次 開講科目	開講期	担当教員
臨床薬学実習Ⅱ	前期・後期	全教員
アドバンスセミナーⅢ	集中	菊地 真実、亀井 美和子、丸山 桂司、小原 道子、渡邊 伸一、吉田 貴行、原田 美那
アドバンスセミナーⅣ	集中	菊地 真実、丸山 桂司、小原 道子、渡邊 伸一、亀井 美和子、吉田 貴行、原田 美那

6年次 開講科目	開講期	担当教員
臨床薬物治療総合演習	前期	清野 敏一、濃沼 政美、高崎 浩太郎、栗林 和美、島崎 学
実践薬学	前期	丸山 桂司、栗林 和美
薬学総括講義	前期・後期	<p>(物理系分野)</p> <p>伊佐間 和郎、渡辺 達也、大野 賢一、窪田 剛志</p> <p>(化学系分野)</p> <p>鈴木 英治、小松 俊哉、栗原 健一、高松 智、鈴木 達彦</p> <p>(生物系分野)</p> <p>高橋 美樹子、斎藤 浩美、池本 守、山元 健太、後藤 芳邦、西川 毅</p> <p>(衛生系分野)</p> <p>矢ノ下 良平、中谷 良人、小川 裕子、大野 まき</p> <p>(薬理学分野)</p> <p>清水 俊一、吉田 卓史、山本 伸一郎、戸田 雄大、建部 卓也</p> <p>(薬物治療学分野)</p> <p>石井 正和、小林 秀昭、秋山 晴代、高崎 浩太郎、栗林 和美、栗坂 知里</p> <p>(薬剤学分野)</p> <p>並木 徳之、水間 俊、山本 佳久、濱田 和真、中埜 貴文</p> <p>(法規・倫理分野)</p> <p>井手口 直子、小原 道子、菊地 真実、宮崎 生子</p> <p>(実務系分野)</p> <p>島崎 学、佐村 優、清野 敏一、栗林 和美、鈴木 正論、井手口 直子、伊東 育己、濃沼 政美、世永 由里子、吉田 貴行</p>
医薬特別講義Ⅰ	前期・後期	後藤 芳邦、鈴木 正論
医薬特別講義Ⅱ	前期・後期	磯田 勝広
医薬特別講義Ⅲ	前期・後期	井手口 直子、小原 道子、山元 健太
医薬特別講義Ⅳ	前期・後期	矢ノ下 良平、伊佐間 和郎、濱田 和真、高松 智、吉田 貴行、秋山 晴代、濃沼 政美

(2) 在籍者数

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		200	200	200	240	240	240
入学時の学生数 ²⁾	A	215	220	207	202	197	210
在籍学生数 ³⁾	B	238	213	203	178	150	251
過年度在籍者数 ⁴⁾	C	23	38	45	34	14	87
編入学などによる在籍者数	D	0	0	0	0	0	0
ストレート在籍者数 ⁵⁾	E	215	175	158	144	136	164
ストレート在籍率 ⁶⁾	E/A	100.0%	79.5%	76.3%	71.3%	69.0%	78.1%
過年度在籍率 ⁷⁾	C/B	9.7%	17.8%	22.2%	19.1%	9.3%	34.7%

1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員

2) 当該学年が入学した時点での実入学者数

3) 5月1日現在における各学年の在籍学生数

4) 何らかの理由で当該学年に対応する正規入学年度以前に入学している学生の数

5) (在籍学生数) - {(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)} を記載

(E={B-(C+D)})

6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値 (%) を小数点以下第1位まで記載

7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値 (%) を小数点以下第1位まで記載

(3) 学籍異動

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	207	219	220	239	238
	休学者数 ²⁾	1	2	4	1	5
	退学者数 ²⁾	13(3)	6	5	30(5)	16(4)
	留年者数 ²⁾	16	11	18	22	41
	進級率(%) ³⁾	85.5%	91.3%	87.7%	77.8%	73.9%
2年次	在籍者数 ¹⁾	223	197	220	231	213
	休学者数 ²⁾	1	6	6	1	2
	退学者数 ²⁾	12(3)	10(3)	8(3)	14(5)	8(5)
	留年者数 ²⁾	18	14	39	26	45
	進級率(%) ³⁾	86.1%	84.8%	75.9%	82.3%	74.2%
3年次	在籍者数 ¹⁾	229	201	175	182	203
	休学者数 ²⁾	0	1	0	0	3
	退学者数 ²⁾	8(3)	2(1)	1	4	4(1)
	留年者数 ²⁾	9	7	17	14	37
	進級率(%) ³⁾	92.6%	95.0%	89.7%	90.1%	78.3%
4年次	在籍者数 ¹⁾	196	223	202	169	178
	休学者数 ²⁾	1	4	1	2	2
	退学者数 ²⁾	6(6)	5(3)	1(1)	5(1)	5(4)
	留年者数 ²⁾	10	7	12	12	27
	進級率(%) ³⁾	91.3%	92.8%	93.1%	88.8%	80.9%
5年次	在籍者数 ¹⁾	203	179	207	188	150
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	0	0	0	2	0
	留年者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	進級率(%) ³⁾	100.0%	100.0%	100.0%	98.9%	100.0%

1) 各年度5月1日現在における各学年の在籍学生数

2) 各年度の年度末に、それぞれの学年から次の学年に進級できなかった学生数を、その理由となった事象に分けて記載 ※退学者数の()内は転科者数

3) 進級率は、次式で計算した値を%表記、小数点以下第1位まで記載

$$\{(在籍者数) - (休学者数 + 退学者数 + 留年者数)\} / (在籍者数)$$

(4) 卒業者数

		2020 年度	2021 年度	2022年 度	2023年 度	2024年 度
卒業判定時（年度末）の在籍学生数 ¹⁾ A		210	206	181	207	186
学士課程修了（卒業）者数 B		166	152	137	142	144
卒業率 ²⁾ B/A		79.0%	73.8%	75.7%	68.6%	77.4%
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年 C	162	144	130	138	132
	7年	4	7	5	4	8
	8年	0	1	2	0	2
	9年以上	0	0	0	0	2
入学時の学生数（実入学者数） ⁴⁾ D		248	241	239	232	210
ストレート卒業率（%） ⁵⁾ C/D		65.3%	59.8%	54.4%	59.5%	62.9%

1) 年度途中で卒業した学生（秋卒者など）の数は除いて、年度末の卒業判定会議で認定された数を記載

2) 卒業率 = (学士課程修了（卒業）者数) / (卒業判定時（年度末）の在籍学生数) の値を%表記、小数点以下第1位まで記載

3) 「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載

4) 各年度の正規卒業学生が入学した年度の実入学者数（編入学者を除く）を記載

5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値を%で表記、小数点以下第1位まで記載

(5) 入学者数

入学年度		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	平均値 ⁵⁾
入学定員	A	240	240	240	200	200	200	
実入学者数 ¹⁾	B	210	197	202	207	220	215	208
入学定員充足率(%) ²⁾	B/A	87.5%	82.1%	84.2%	103.5%	110.0%	107.5%	95.8%
編入学定員		0	0	0	0	0	0	
編入学者数 ³⁾	C+D+E	0	0	0	0	0	0	0
編入学した 学年別の 内数 ⁴⁾	2年次 C	0	0	0	0	0	0	0
	3年次 D	0	0	0	0	0	0	0
	4年次 E	0	0	0	0	0	0	0

- 1) 各年度の5月1日において1年次に在籍していた新入生数
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した値(%小数点以下第1位まで)を記載
- 3) 各年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載
- 4) 編入学者数の編入学受け入れ学年別の内数を記載。薬学部では2年次編入を入学条件としていた。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第1位まで記載

(6) 学年暦

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	月	水	土	月	木	前期定期試験	日
2	火	木	日	火	金	前期定期試験	月 前期追再試験
3	水	上級生ガイダンス	金 憲法記念日	月	水	土	火 前期追再試験
4	木	入学式	土 みどりの日	火	木	日	水 前期追再試験
5	金	新入生オリエンテーションガイダンス	日 こどもの日	水	金	月	木 前期追再試験
6	土	前期授業開始	月 振替休日	木	土	火	金 前期追再試験 CBT体験受験
7	日	火	金	日	水	土	
8	月	水	土	月	木	オープンキャンパス 前期成績通知	日
9	火	木	日	火	金	オープンキャンパス	月 後期授業開始
10	水	金	月	第1Q定期試験 成績通知	水	土	火
11	木	土	火	木	日	山の日	水 前期追再試験 成績通知(4年)
12	金	日	水	金	月	振替休日	木
13	土	月	木	土	火	金	
14	日	火	金	日	水	土	
15	月	水	土	月	海の日	木	日
16	火	木	日	火	金	月	敬老の日
17	水	金	月	水	土	火	
18	木	土	火	木	日	水	前期追再試験 成績通知
19	金	日	水	金	月	木	
20	土	月	木	土	オープンキャンパス	火	金
21	日	火	金	日	オープンキャンパス	水	土
22	月	水	土	月	木	日	秋分の日
23	火	木	日	火	金	前期追再試験 (4年)	月 振替休日 前期卒業式
24	水	金	月	水	土	火	
25	木	土	火	木	日	水	
26	金	日	水	金	月	前期追再試験 (4年)	木
27	土	月	木	土	火	前期追再試験 (4年)	金
28	日	火	金	日	水	前期追再試験 (4年)	土
29	月	昭和の日	水 第1Q定期試験	土 創立記念日	月 前期定期試験	木 前期追再試験 (4年)	日
30	火	木	第1Q定期試験	日 オープンキャンパス	火 前期定期試験	金	月
31		金	第1Q定期試験	水	前期定期試験	土	

		10月		11月		12月		1月		2月		3月
1	火		金		日	OSCE本試験	水	元旦	土		土	
2	水		土		月		木		日		日	
3	木		日	文化の日	火		金		月		月	後期追再試験 成績通知
4	金		月	振替休日	水		土		火		火	
5	土		火	第3Q定期試験	木		日		水	後期追再試験	水	
6	日		水	第3Q定期試験	金		月		木	後期追再試験	木	
7	月		木	第3Q定期試験	土		火		金	後期追再試験	金	
8	火		金		日		水		土		土	
9	水		土	学園祭 オープンキャンパス	月		木	CBT本試験	日		日	
10	木		日	学園祭 オープンキャンパス	火		金		月	後期追再試験	月	
11	金		月		水		土		火	建国記念の日	火	
12	土		火		木		日		水	後期追再試験	水	
13	日		水		金		月	成人の日	木		木	
14	月	スポーツの日	木		土		火	後期定期試験	金		金	
15	火		金		日		水	後期定期試験 後期追再試験(4年)	土		土	
16	水		土		月		木	後期定期試験 後期追再試験(4年)	日		日	
17	木		日		火	後期定期試験 (4年)	金	後期定期試験 後期追再試験(4年)	月		月	
18	金		月		水	後期定期試験 (4年)	土		火	後期追再試験 成績通知	火	
19	土		火	第3Q定期試験 成績通知	木	後期定期試験 (4年)	日		水		水	
20	日		水		金		月	後期定期試験 後期追再試験(4年)	木	OSCE追再試験	木	春分の日
21	月		木		土		火		金		金	卒業式
22	火		金		日		水	後期追再試験 成績通知(4年)	土		土	
23	水		土	勤労感謝の日	月		木		日	天皇誕生日	日	
24	木		日		火		金		月	振替休日	月	
25	金		月		水		土		火		火	
26	土		火		木		日		水	CBT追再試験	水	
27	日		水		金	後期定期試験 成績通知(4年)	月		木		木	
28	月		木		土		火	後期定期試験 成績通知	金		金	
29	火		金		日		水		土		土	
30	水		土		月		木				日	オープンキャンパス
31	木				火		金				月	

(7) 教育行事

1) 早期体験学習

本薬学部では早期臨床体験の一環として、1年次後期に実施される「フレッシュセミナーⅠB」において地域の病院・薬局等の施設への訪問体験学習を行い、その重要性や課題を討議している。

2024年度は、下記のスケジュールで施設訪問を行った。

9月13日(金)	オリエンテーション
	早期体験学習に向けて(講義、早期体験学習顔合わせ)
9月20日(金)	未来の薬剤師像(外部講師による講義)
	不自由体験、AED講習についてのイントロダクション(講義)
9月27日(金)	早期体験訪問①(一部不自由体験+AED講習)
10月4日(金)	早期体験訪問②(一部不自由体験+AED講習)
10月11日(金)	早期体験訪問③(一部不自由体験+AED講習)
10月18日(金)	早期体験訪問④(一部不自由体験+AED講習)
10月25日(金)	早期体験訪問⑤(一部不自由体験+AED講習)
11月1日(金)	早期体験先訪問後のSGD:訪問の成果を討議
	早期体験先訪問後のSGD:プロダクトの作成
11月22日(金)	リモート工場見学(東和薬品(株)山形工場)
	早期体験先訪問後のSGD:発表

①早期体験学習を行った施設

薬局及び施設(医療機関、製薬企業の研究所や工場など)の訪問により、薬剤師の業務・職場の見聞を促している。今年度は1人当たりの訪問先を1件として割り振りを行った。見学先の割り振りは学生の希望や自宅からの距離などを参考にして実施した。薬局は中野区(5薬局)及び杉並区(3薬局)の地域薬局、並びに大手チェーン薬局(25薬局)の中から割り振った。また、その他の施設としては医療機関9施設及び中野区保健所、東京都健康安全研究センター、株式会社スズケン首都圏物流センター及びファンケル美健千葉工場を訪問先とした。訪問先一覧は、以下の表の通りである。さらに、全学生が東和薬品株式会社山形工場をリモート見学した。

法人協力薬局

アイン薬局 西新宿店	アイン薬局 中野セントラルパーク店
セキ薬局 戸田公園店	セキ薬局 桜木町店
クオール薬局 恵比寿店	クオール薬局 港北店
クオール薬局 狛江店	クオール薬局 大船1号店

クオール薬局 調布店	エンジェル薬局 船堀2号店
ナチュラルローソンクオール薬局 城山トラスト タワー店	ナチュラルローソンクオール薬局 新宿駅西店
薬局くすりの福太郎 豊洲店	ファーコス薬局 こいと
ユニスマイル薬局 学芸大学店	みよの台薬局 相模大野店
みよの台薬局 新小金井店	みよの台薬局 千間台店
志宝薬局 浦安店	志宝薬局 田園調布店
そうごう薬局 春日部店	そうごう薬局 南船橋駅前店
そうごう薬局 KOSUGI iHUG 店	友愛薬局 馬橋駅前店
友愛薬局 船橋店	

中野区薬剤師会協力薬局

青葉調剤薬局	西武スバル薬局
たから薬局東中野店	ナカノ薬局
すみれ薬局	

杉並区薬剤師会協力薬局

龍生堂薬局西荻店	佐野薬局
サエラ薬局浜田山店	

医療機関及び他施設

川口工業総合病院	国立国際医療研究センター病院
災害医療センター	帝京大学ちば総合医療センター
東京曳舟病院	東京医療センター
横浜労災病院	武蔵野療園病院
中野区保健所	東京都健康安全研究センター
ファンケル（株）美健千葉工場	（株）スズケン首都圏物流センター

②早期体験学習での討論

訪問する目的及び訪問することで得られた成果について SGD を実施した。それらの成果に関して相互理解する目的で、発表会を実施した。

討論テーマは以下の通りである。

「あなたが訪問した施設について次のことを述べなさい。

- ①訪問した施設の医療における役割と特徴は何か。②その施設に勤務する薬剤師の役割は何か。
- ③訪問前後で認識が変わった点は何か。」

2) 共用試験

1. CBT

CBT 体験受験は、2024年9月6日（金）に実施した。9時30分よりゾーン1試験を開始し、17時10分にゾーン3試験まで予定通りに終了した。受験者数164名、欠席者数12名、試験監督教職員26名、モニター員1名（日本薬科大学）であった。CBT 体験受験結果は9月17日に学生に配付した。

CBT 本試験は、2025年1月9日（木）に実施した。9時30分よりゾーン1試験を開始し、17時10分にゾーン3試験まで予定通りに終了した。受験者数167名、欠席者数5名、試験監督教職員26名、モニター員1名（日本薬科大学）であった。CBT 本試験結果は1月22日に合格者には合否の通知のみを、不合格者には開示結果を返却した。

CBT 追再試験は、2025年2月26日（水）に実施した。9時30分よりゾーン1試験を開始し、17時10分にゾーン3試験まで予定通りに終了した。受験者数29名、試験監督教職員13名、モニター員1名（日本薬科大学）であった。CBT 追再試験結果は3月7日に合格者には合否の通知のみを、不合格者には開示結果を返却した。

CBT 本試験と追再試験の合格基準は、総合得点率60%以上（310問中186点以上）とし、合格者は146名であった。

2. OSCE

OSCE 本試験は、2024年12月1日（日）に実施した。学生をA～Cの3グループに分け、Aグループは10時30分～12時、Bグループは13時～14時30分、Cグループは15時～16時30分に試験を行った。6ステーション（6レーン）と4つのレストで、3階の調剤実習室、無菌調剤実習室と講義室、4階のSGD室と講義室を試験会場とした。試験に要した人員は、評価者108名（本学教員17名、外部91名）、模擬患者25名、運営スタッフ116名（学生スタッフ36名）であった。10時30分に試験を開始し、16時30分に試験が終了した。本試験においては、評価者の行動が学生に有利な状況になった可能性があるとして、薬学共用試験センターの判断で1名が特例追試験の対象となった。

OSCE 特例追試験は、2025年1月23日（木）に、受験生1名で1課題を実施した。試験前に評価者講習会を実施し、17時15分から試験を開始し、トラブルなく終了した。評価者は、本学教員1名、外部1名であった。

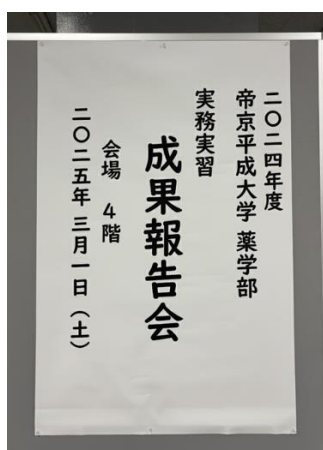
OSCE 再試験は、2025年2月20日（木）に、受験生3名で3課題を実施した。試験前に評価者講習会を実施し、17時15分から試験を開始し、トラブルなく終了した。評価者は、外部4名であった。

合格基準は、細目評価70%以上、概略評価5以上（評価者2名の合計）とし、合格者は168名であった。

3) 実務実習成果報告会

本学では毎年、実習施設の指導薬剤師の先生方を招き、実務実習終了後に病院及び薬局での実習で学修した内容を学生自身がポスターにまとめて発表する「実務実習成果報告会」を開催している。報告会では、学生のポスター発表に対して、担当教員1名と担当教員以外1名の合計2名が概略評価を行って、実務実習の振り返りを行っている。

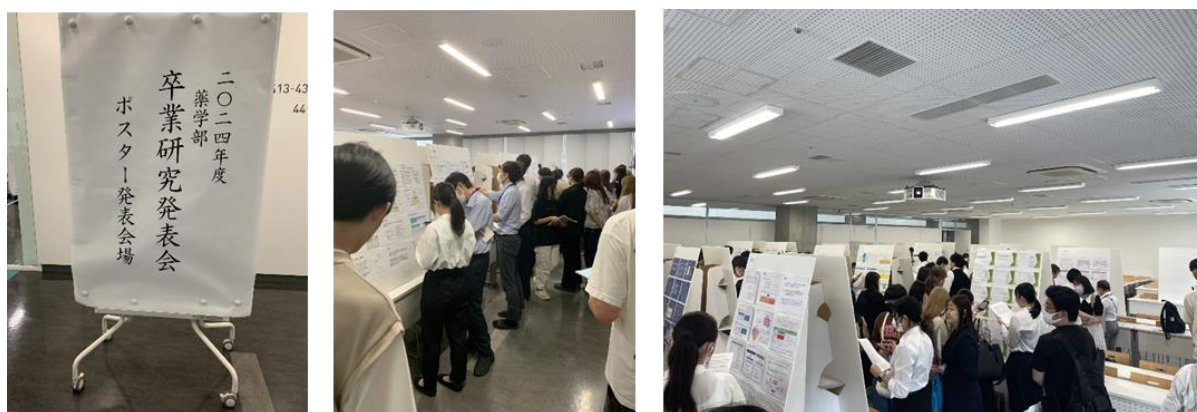
本年度は2025年3月1日（土）に「実務実習成果報告会」を開催し、2024年度実務実習（実習生152名、薬局130施設、病院75施設）を終了した5年次生が発表を行った。学外からは実習で指導していただいた18名の指導薬剤師等が参加した。



4) 卒業研究発表会

薬学部の卒業研究では、教員の研究テーマに関連したテーマについて研究する「個別研究」と、疾患など医療に関するテーマについて調査研究を行う「一般研究」のいずれかを行うことになっている。

6年生の卒業研究発表会は、2024年6月22日（土）13:00～16:30に2部に分かれてポスター発表会として実施した。発表会場として4階SGD室、403教室、404教室を使用し、第1部で個別研究学生108名、第2部で一般研究学生78名が発表及び質疑応答（1時間ずつ）を行った。卒業研究発表会の演題一覧は以下の表に示す。各学生につき主査1名（指導教員）と副査1名（薬学部教員）が評価者となり、ポスター説明と質疑応答に対する評価をルーブリックに従って実施した。学生同士の発表・質疑応答も積極的に行われた。また、今年度は低学年からの研究マインド育成を目的としたカリキュラム「薬学研究IA」の一環として1年生全員が卒業研究発表会に参加することとなり、6年生は1年生に対して研究内容をかみ砕いて説明し質問に答えるなど、例年以上に充実した発表会となった。



個別研究

演題番号	発表演題名	ユニット名
S-01	服薬カレンダー・一包化の有用性	薬事・情報学
S-02	薬剤師及び薬局に対する一般市民の意識調査	薬事・情報学
S-03	ドーピング違反の分析に基づく対策と方法	薬事・情報学
S-04	治療用放射性医薬品の国内外におけるRMPの比較	薬剤疫学
S-05	希少がんの医師主導治験における患者のQOLの検討	薬剤疫学
S-06	炎症性腸疾患に対する「Shared Decision Making」への患者の積極性に関する研究 -患者背景因子の探索-	医薬品安全性評価学
S-07	ペットと暮らすことが、人の幸福度に及ぼす影響 -中野区民調査データを用いた探索-	医薬品安全性評価学
S-08	深夜開局薬局が地域において果たす役割に関する研究 -新宿区歌舞伎町の薬局での調査を通して-	医療倫理学
S-09	我が国における精神障害者の脱施設化に関する一考察 -イタリアでの脱施設化との比較を通して-	医療倫理学

S-10	男性用尿漏れパットに対する薬剤師のかかわり方の検討～3社比較試験を通じて～	実践地域連携
S-11	服薬ゼリーを利用した医薬品服薬時の崩壊試験と期待できる飲水量削減について	実践地域連携
S-12	地域包括支援センターの機能と薬剤師の役割に関する研究	実践地域連携
S-13	介護老人保健施設への薬剤師の役割に関する研究	実践地域連携
S-14	介護老人福祉施設への薬剤師の役割に関する研究	実践地域連携
S-15	分包されたドライシロップ製剤の保管に関する研究	病院薬学
S-16	大腸癌の化学療法における漢方薬を用いた副作用対策	病院薬学
S-17	十全大補湯エキス製剤を再分包した時の保管に関する研究	病院薬学
S-18	嚥下性を考慮した高分子配合錠剤の検討～ β -カラギーナンとフローライト [®] を用いた調製～	地域薬局学
S-19	鉄欠乏性貧血の認知と生活についてのアンケート調査	地域薬局学
S-20	処方箋記載の検査値から疑義照会に至った事例の概要分析	地域薬局学
S-21	嚥下性を考慮した高分子配合錠剤の検討～ β -カラギーナンと結晶セルロースを用いた調製～	地域薬局学
S-22	心臓血管外科術後のワルファリン PBPM において薬剤師が主導管理した患者群は良好なコントロールとなるか	臨床薬物治療学
S-23	Barthel Index で層別化した心不全患者における SGLT2 阻害薬の有効性と安全性について	臨床薬物治療学
S-24	機能性表示食品の保存環境による品質への影響に関する研究	臨床薬物治療学
S-25	高齢者のせん妄の問題に関する情報収集と対応策の検討	臨床薬物治療学
S-26	オピオイド鎮痛薬に関する医療事故の事例調査と防止策の検討	臨床薬物治療学
S-27	線維筋痛症に関する調査研究	治療評価学
S-28	子宮頸がんワクチンに関する調査研究	治療評価学
S-29	COVID19 と薬物治療の検証	薬学基礎教育
S-30	2-(2,4-dimethoxyphenyl)-5-methoxybenzofuran の脱メチル化反応 -リード候補化合物 168 の合成および予想外生成物 A の構造決定	薬学基礎教育
S-31	拘束ストレス下のマウスの不安様行動について	医療薬学系教育
S-32	血糖降下作用が期待される新規化合物のインスリン分泌量への影響	医療薬学系教育
S-33	痛風・高尿酸血症患者を対象とした食事調査研究	学修支援ユニット
S-34	調味料と薬膳料理、簡易麺、昆虫食に含まれるプリン体の定量	学修支援ユニット
M-01	Met437 の変異が RNPEPL1 の基質特異性に与える影響	細胞生化学
M-02	RNPEPL1 の V326G/A327G ダブル変異体を用いた酵素学的性状の解析	細胞生化学

M-03	ERAP1 遺伝子欠損に伴う行動異常およびその行動に対するセロトニン受容体阻害薬の効果	細胞生化学
M-04	ERAP1 遺伝子欠損に伴う行動異常に対する DREADD システムによるセロトニン神経機能低下の効果	細胞生化学
M-05	細胞増殖に対する LARP1 機能欠損変異体の影響	細胞生化学
M-06	LARP1 の RNA 結合ドメインを介した p53 発現制御についての解析	細胞生化学
M-07	クロルプロマジンを用いたヒト唾液由来細胞外小胞の細胞内取り込み機構の解析	膜機能
M-08	ヘパリンを用いたヒト唾液由来細胞外小胞の細胞内取り込み機構の解析	膜機能
M-09	ファゴサイトーシス・マクロピノサイトーシス阻害剤を用いたヒト唾液由来細胞外小胞の細胞内取り込み機構の解析	膜機能
M-10	唾液由来細胞外小胞に含有されるマクロファージ活性化を抑制する因子の検討	膜機能
M-11	細胞外小胞の治療への応用とその問題点の検討	膜機能
M-12	細胞質型プロスタグランジン E 合成酵素の解析	膜機能
M-13	一次繊毛形成に関わる CG-NAP の機能に関する研究—PCM 1 結合領域の解析—	分子細胞制御
M-14	プロテアソーム阻害細胞における中心体タンパク質 PCNT/Kendrin の機能について	分子細胞制御
M-15	アグリソーム形成における中心体タンパク質 PCNT/Kendrin の機能解析	分子細胞制御
M-16	アグリソーム形成を制御する中心体タンパク質の機能解析	分子細胞制御
M-17	チャバネアオカメムシ盲嚢部の時期特異的に発現する遺伝子の RT-PCR 法による解析	遺伝子機能解析
M-18	酸化アルミニウムナノ粒子の薬物相互作用における肝臓及び腎臓への傷害性に関する検討	生体制御
M-19	アルミナ修飾シリカナノ粒子の肝・腎傷害と相互作用に関する検討	生体制御
M-20	悪性黒色腫に対する TRAIL 受容体を標的とした 2 重特異性抗体 4 量体の細胞死誘導効果	生体制御
M-21	マウス腎がん細胞に対する抗 TRAIL 受容体抗体の細胞死誘導効果	生体制御
M-22	一本鎖抗体を用いた抗菌補助剤の作製と精製条件検討	生体制御
M-23	一本鎖抗体抗菌補助剤の精製と緑膿菌感染マウス肺炎モデルの作製	生体制御
M-24	T7 RNA ポリメラーゼ発現系導入によるイムノトキシン高発現ビフィズス菌の作製	生体制御
M-25	T7 RNA ポリメラーゼ導入ビフィズス菌における抗 Ras 抗体発現の検討	生体制御
M-26	IL-21、IL-18 誘導体及び抗 RAS 抗体を分泌発現する組換えビフィズス菌による抗腫瘍効果の検討	抗体 DDS
M-27	マウス結腸がん細胞 CT26 における血管新生阻害剤、抗 RAS 抗体発現ビフィズス菌による効果の検討	抗体 DDS
M-28	組み換えビフィズス菌製剤および血管新生阻害剤の併用による抗腫瘍作用の評価	抗体 DDS

M-29	IL18 誘導体及び抗 RAS 抗体を分泌する組換えピフィズス菌と血管新生阻害剤併用による抗腫瘍効果の評価	抗体 DDS
M-30	低分子一本鎖抗 MSLN イムノトキシンの膵臓がんに対する効果の検証	抗体 DDS
M-31	抗 MSLN-VHH 抗体イムノトキシンの性状解析と安全性評価	抗体 DDS
M-32	シトクロム C 複合体の原子付加と結合間距離による構造変化	タンパク質科学
M-33	黄色ブドウ球菌が結合したことによるヘモグロビンの構造変化	タンパク質科学
M-34	CYPs による柑橘類含有生理活性物質ヘプタメトキシフラボン代謝の比較検討	薬物動態学
M-35	柑橘類含有生理活性物質ヘプタメトキシフラボン代謝の諸検討	薬物動態学
M-36	肝毒性化合物によるミトコンドリア膜障害および漏出分子に関する解析	薬物動態学
M-37	ミトコンドリア膜透過性遷移に伴うシグナル放出の基礎的解析	薬物動態学
M-38	スタウロスポリンの細胞毒性に対する H0-1 の細胞保護機構に関する研究	薬物動態学
M-39	ヘミンによるタモキシフェンの細胞毒性に対する保護効果に関する研究	薬物動態学
M-40	Spike タンパク質発現がん細胞を用いたがんワクチンの作製	薬理学
M-41	抗原発現細胞のがん領域への応用	薬理学
M-42	IK チャンネル阻害が p21Cip1 発現量に及ぼす影響と細胞周期への関与	薬理学
M-43	近赤外光応答性人工チャネルタンパク質による細胞死誘導手法の開発	薬理学
M-44	血中コレステロン濃度を指標としたマウスにおける拘束ストレスによる不安神経症モデルの作製	薬理学
M-45	不安関連行動を指標としたマウスにおける拘束ストレスによる不安神経症モデルの作製	薬理学
M-46	EXILE 法実施時における唾液検体の処理法の検討	薬物治療学
M-47	唾液を用いた in vitro アレルギー検査法の確立	薬物治療学
M-48	ヒト IgE 受容体発現細胞株を用いた新たな抗アレルギー薬の探索	薬物治療学
M-49	HuRa-40 細胞を用いた EXILE 法による新規アレルギー治療薬の探索	薬物治療学
M-50	Cd38 KO 腹腔常在性マクロファージにおける DNA 損傷の関与に関する研究	生理・病態学
M-51	腹腔マクロファージにおける CD38 の生理的役割に関する研究	生理・病態学
M-52	睡眠による休養と脳卒中発症との関係	生理・病態学
M-53	高血圧、BMI、および心不全発症の関連性	生理・病態学
M-54	薬局薬剤師の頭痛治療への関与に関する調査	生理・病態学
M-55	慢性頭痛患者におけるスマートフォン依存と頭痛の関連性	生理・病態学
M-56	抗菌活性をもつ桂皮酸誘導体の合成研究	創薬科学
M-57	抗菌活性をもつナフチル誘導体の合成研究	創薬科学

M-58	吸湿した重質酸化マグネシウム製剤における水酸化マグネシウムへの変化率についての定量的評価	物理薬剤学
M-59	クロベタゾールプロピオン酸エステル軟膏とヘパリン類似物質油性クリーム混合物における液状層の発生と保存温度との関係	物理薬剤学
M-60	アムロジピン OD 錠の分包時における安定性の評価	物理薬剤学
M-61	昆虫食に含まれる栄養成分研究 (ミネラル・ビタミン B ₂)	薬品分析学
M-62	リップティントに含まれる染料の分析調査	薬品分析学
M-63	ルミノール化学発光を用いた GHK の簡易測定法の開発	薬品分析学
M-64	生体試料中 GHK の質量分析法の開発	薬品分析学
M-65	二方向型ニトロアルドール反応の研究 -収率向上と生成物の立体構造に関する検討-	医薬有機化学
M-66	癌細胞遊走阻害剤 Moverastin 誘導体の合成研究 -UTK05 モデル化合物合成の検討-	医薬有機化学
M-67	21 位フッ素化ビタミン D ₃ 誘導体の合成研究	医薬有機化学
M-68	ダロマイシン I の合成研究	医薬有機化学
M-69	ホップからの PDT 補助剤探索 (3) キサントフモールとその生理活性	医薬有機化学
M-70	ホップからの PDT 補助剤探索 (4) キサントフモール関連化合物の研究	医薬有機化学
M-71	健康寿命の延伸を目指した生薬サフランの評価	天然医薬資源学
M-72	線虫を用いた生薬サフランの抗老化評価	天然医薬資源学
M-73	曲直瀬流の初期能毒書の形成について	天然医薬資源学
M-74	江戸時代における曲直瀬流における薬物書の展開に関する研究 -『靈宝薬性能毒』の種々の刊本の関係と中国本草書との影響について-	天然医薬資源学

一般研究

演題番号	発表演題名	部門名
G-01	脂質異常症治療薬の効果に関する研究	社会薬学教育研究センター
G-02	我が国の花粉症治療における漢方薬治療の実態 -特定健診データを用いたビッグデータの集計-	社会薬学教育研究センター
G-03	オランダにおける認知症患者の安楽死についての一考察	社会薬学教育研究センター
G-04	腹部保温製品を用いた睡眠の質に関する研究	社会薬学教育研究センター
G-05	多言語環境下での一般用医薬品における生成型 AI の正確性と評価	社会薬学教育研究センター

G-06	とろみ剤の溶媒と温度の影響に関する研究	社会薬学教育研究センター
G-07	重度ベーチェット病患者に対するインフリキシマブの使用と薬剤師が介入する点について	薬学臨床教育研究センター
G-08	アレルギー性鼻炎の治療に介入する薬剤師に求められる知識	薬学臨床教育研究センター
G-09	食後血糖値の上昇抑制因子と食事療法	薬学臨床教育研究センター
G-10	ドラッグストア薬剤師がかかりつけ薬剤師になるには	薬学臨床教育研究センター
G-11	認定・専門薬剤師について	薬学臨床教育研究センター
G-12	直腸・結腸がん患者におけるベバシズマブ先行バイオ医薬品とバイオ後続品の臨床検査値に基づく安全性評価	薬学臨床教育研究センター
G-13	疑義照会からみる SGLT2 阻害薬の適応症拡大による適正使用	薬学臨床教育研究センター
G-14	ビグアナイド系薬剤の疑義照会と重篤な副作用回避のための情報収集と提供	薬学臨床教育研究センター
G-15	高齢者の肺炎に関する問題と薬剤師としての関わり	薬学臨床教育研究センター
G-16	アンチ・ドーピングとスポーツファーマシストの啓発活動の有用性	薬学臨床教育研究センター
G-17	妊娠高血圧に使用可能な降圧剤に関する調査研究	薬学臨床教育研究センター
G-18	SGLT2 阻害薬の適応症と副作用に関する調査研究	薬学臨床教育研究センター
G-19	早産に関連する疾患に関する解析-日本の有害事象自発報告データベース (JADER) を用いて-	薬学臨床教育研究センター
G-20	認知症治療薬の有害事象に関する解析	薬学臨床教育研究センター
G-21	低用量ピルの有害事象に関する解析-日本の有害事象自発報告データベース (JADER) を用いて-	薬学臨床教育研究センター
G-22	低毒性なベンゾフラン系 A β 凝集阻害剤の活性の再検討	薬学教育研究センター
G-23	心不全における SGLT2 阻害薬の有用性について	薬学教育研究センター
G-24	高血圧とアムロジピン	薬学教育研究センター
G-25	新規心不全治療薬エンレスト®について	薬学教育研究センター
G-26	化学療法誘発性悪心・嘔吐に対する適切な制吐療法	薬学教育研究センター
G-27	妊娠高血圧症候群における治療薬の選択	薬学教育研究センター
G-28	乳がん治療における副作用とその対処法	薬学教育研究センター
G-29	食物アレルギーと抗 IgE 療法について	薬学教育研究センター
G-30	年代別による糖尿病治療薬の使い分けについて	薬学教育研究センター
G-31	膵臓がん治療の現状と今後期待される治療法	細胞機能教育研究部門
G-32	ケタミンの効果と適応から考える使用上のリスクと有用性	細胞機能教育研究部門

G-33	イネ科花粉アレルギーに対する免疫療法についての調査研究	細胞機能教育研究部門
G-34	関節リウマチにおける糖尿病治療薬の影響に関する調査研究	細胞機能教育研究部門
G-35	乳がんの概日リズムを応用した新規治療法の可能性について	細胞機能教育研究部門
G-36	認知症の薬物治療に関する調査研究	細胞機能教育研究部門
G-37	注意欠如・多動症の治療と支援に関する調査研究	細胞機能教育研究部門
G-38	潰瘍性大腸炎について	細胞機能教育研究部門
G-39	妊娠糖尿病治療薬の危険性と処方状況に関する調査研究	細胞機能教育研究部門
G-40	食品添加物の安全性に関する調査研究	細胞機能教育研究部門
G-41	糖尿病治療薬は認知症治療薬として有効か	細胞機能教育研究部門
G-42	HER2 陽性乳がんの治療における分子標的薬とベルツマブについての研究	生体防御教育研究部門
G-43	デノスマブ—関節リウマチへの利用	生体防御教育研究部門
G-44	新型コロナウイルス感染症に対して適応のある抗体医薬品の比較	生体防御教育研究部門
G-45	抗悪性腫瘍剤ベバシズマブの副作用スクリーニングとしてゼブラフィッシュ異種移植は適応可能か	生体防御教育研究部門
G-46	HER2 陽性乳がんにおけるトラスツマブ エムタンシンの有用性の評価	生体防御教育研究部門
G-47	脂肪性肝疾患の病態および治療薬に関する調査研究	医薬品機能教育研究部門
G-48	片頭痛治療薬に関する調査研究と今後の展望について	医薬品機能教育研究部門
G-49	アトピー性皮膚炎の効果的な治療法	医薬品機能教育研究部門
G-50	パーキンソン病新薬開発のためのターゲット分子	医薬品機能教育研究部門
G-51	トラスツマブの開発経緯について	医薬品機能教育研究部門
G-52	ダロルタミドと同効薬との比較	医薬品機能教育研究部門
G-53	アレムツマブの有効性に関する調査研究	医薬品機能教育研究部門
G-54	濾胞性リンパ腫治療に対するリツキシマブとオビヌツマブの比較検討	医薬品機能教育研究部門
G-55	新規作用機序を有するアルツハイマー型認知症治療薬「レカネマブ」について	医薬品機能教育研究部門
G-56	糖尿病性腎症の治療に期待される標的因子 Nrf2 について	医薬品機能教育研究部門
G-57	てんかんの治療に期待される標的因子 LGI1 および ADAM22 について	医薬品機能教育研究部門
G-58	くも膜下出血における遅発性の脳組織障害のメカニズムについて	医薬品機能教育研究部門
G-59	片頭痛の病態と新規治療薬について	医薬品機能教育研究部門
G-60	抗アレルギー薬が静脈奇形から来る疼痛に与える影響	医薬品機能教育研究部門
G-61	薬剤性せん妄の原因薬剤と発症機序に関する調査研究	医薬品機能教育研究部門

G-62	頭痛患者に適した医療機関の光環境に関する調査	医薬品機能教育研究部門
G-63	消化性潰瘍の薬物治療について	医薬品機能教育研究部門
G-64	持続性 GIP/GLP-1 受容体作動薬チルゼパチドについて	医薬品機能教育研究部門
G-65	経口固形剤の製品名直接印字に関する研究 (IV) —日本ジェネリック製薬協会の調査—印字率の全容と製薬会社間での比較解析	創薬基盤教育研究部門
G-66	経口固形剤の製品名直接印字に関する研究 (V) —日本ジェネリック製薬協会の調査—薬効別印字率の比較解析	創薬基盤教育研究部門
G-67	経口固形剤の製品名直接印字に関する研究 (VI) —日本ジェネリック製薬協会の調査—剤形別印字率の比較解析	創薬基盤教育研究部門
G-68	市販されているステロイド軟膏剤の展延性の比較	創薬基盤教育研究部門
G-69	OD 錠の無包装安定性試験に関する調査研究	創薬基盤教育研究部門
G-70	抗精神病薬ルラシドンに関する調査研究	創薬基盤教育研究部門
G-71	カカオ豆に含まれる「プロシアニジン」の健康への影響に関する文献調査と応用への展望	創薬基盤教育研究部門
G-72	選択的 PPAR α モジュレーター Pemafibrate に関する調査研究	創薬基盤教育研究部門
G-73	SGLT2 阻害薬とその化学構造に関する調査研究	創薬基盤教育研究部門
G-74	髄膜炎の病態、治療および予防に関する調査研究	創薬基盤教育研究部門
G-75	共同研究開発における情報管理法に関する研究	創薬基盤教育研究部門
G-76	アトピー性皮膚炎に対する漢方薬の有効性に関する調査	創薬基盤教育研究部門
G-77	生薬素材から考察した薬膳の効能効果	創薬基盤教育研究部門
G-78	Long Covid 症例に対する漢方治療の調査研究	創薬基盤教育研究部門

5) 薬剤師国家試験

2025年2月22日、23日に実施された第110回薬剤師国家試験の本学の結果を下表に示した。

全国及び本学の第110回薬剤師国家試験結果

	総数	6年制卒業生		その他
		新卒	既卒	
出願者数 (名)	383 (14,825)	160 (9,191)	221 (5,396)	2 (238)
受験者数 (名)	351 (13,310)	144 (8,061)	205 (5,039)	2 (210)
合格者数 (名)	176 (9,164)	100 (6,849)	76 (2,214)	0 (101)
合格率 (%)	50.14 (68.85)	69.44 (84.96)	37.07 (43.94)	0.00 (48.10)

() 内は、110回薬剤師国家試験の全国の結果を表す。

本学の6年制・新卒の合格率は69.44%で、全国平均より15.52ポイント低く、既卒の合格率は37.07%で、全国平均より6.87ポイント低かった。

また、本学の6年制・新卒の受験者数、合格者数及び合格率の年次推移を下表に示した。受験者数は最近2年間、増加傾向にあるが、合格者は減少し、合格率も低下した。

本学における6年制・新卒の受験者数、合格者数及び合格率の年次推移

	106回	107回	108回	109回	110回
受験者数 (名)	166	151	136	141	144
合格者数 (名)	131	111	109	105	100
合格率 (%)	78.92	73.51	80.15	74.47	69.44

6) 薬学業界セミナー

就職活動における情報提供を目的として、主に5年生を対象にオンラインによる「薬学業界セミナー」を開催しており、2024年度は4年生も対象とした。本セミナーは、コロナ禍の2021年以降中野キャンパスアリーナでの対面による開催を断念してオンデマンド配信を実施していたところ、時間を問わずに繰り返し視聴できる利便性などが評価されたため、内容をブラッシュアップした上で、オンデマンド形式での実施を継続している。

本学から企業・団体に対し、5～10分程度の音声付き紹介動画作成を依頼し、提出された動画を募集のある地域ごとに分けてリスト化し、学内限定のYouTubeメディア経由で配信し、学生に視聴を促した。各社の作成資料には「40歳でのモデル年収」及び「他社と比較した際の貴社の特徴」が掲載されており、学生が企業の特徴をつかみやすいように工夫されている。

2024年度は12月以降、4年生177名中102名、5年生150名中88名の閲覧があり、学生への一定の情報提供を行えたものと考えている。今後はさらに掲載企業数を増やすとともに、学生の閲覧数を上げるなどの工夫を、就職支援室とともに行っていく。

7) オレンジバルーンフェスタ (OBF)

中野オレンジバルーンフェスタは、がん医療の啓発イベントとして2015年に開始され、現在では地域医療の未来を考えることを目的とした包括的なイベントへと発展している。2024年度は、11月の学園祭(四季祭)にあわせて「オレンジバルーンフェスタ in 中野」として開催された。本学からは教員及び学生が参加し、地域医療に関する学びの場として積極的に関与した。開催の概要は以下の通りである。

① 運営スタッフ (帝京平成大学教員)

薬学科：濃沼 政美、佐村 優、伊東 育己、亀井 美和子

看護学科：益田 育子、西 留美子

人文社会学部：照屋 健作、森川 洋

② 開催日

2024年11月9日(土)、10日(日)

③ 活動概要

本フェスタでは、「中野の医療・介護に関するインターンシップ発表会」と「対話型シンポジウム」の2つのセッションが実施された。

インターンシップ発表会では、中野区内で医療・介護を支える医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護、ケアマネージャー等の協力を得て、帝京平成大学の学生が各職種での職業体験を通じて得た学びや成果を発表した。

対話型シンポジウムは、「君ならどうする!? 正解なき選択」をテーマに、地域医療・介護における倫理的ジレンマと意思決定を題材として実施された。登壇者である医療・介護従事者が、実際の事例を提示し、学生とともにネットを活用しながら双方向の議論を行い、明確な正解が存在しない中で最良の判断を導くプロセスについて、学生とともに考察した。

本イベントの開催報告は、本学ホームページ(https://pharm.thu.ac.jp/news/2024/0303_02.html)に掲載されている。

なお、本フェスタの様子は中野区医師会新聞

(https://pharm.thu.ac.jp/news/2024/pdf/250303_01.pdf)

においても紹介された。

中野オレンジバレーンフェスタ2024
in 帝京平成大学 中野キャンパス

地域医療を未来へ!
医療介護のプロと学生が共に考えるイベント

○11月9日(土)13:00~14:00
中野医療介護体験インターンシップ発表会

オレンジバレーンフェスタでは、帝京平成大学の学生を対象に、中野地域の医療介護を体験してもらうために、医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護、ケアマネージャー、そして本学教員が一丸となり、インターンシップ(職業体験)を実施しました。当日は、学生がインターンシップ体験内容を発表します!
(ポスター展示は11月9日~11月10日の2日間)



○11月9日(土)14:15~15:30

中野医療介護対話型シンポジウム
「君ならどうする!? 正解なき選択」
地域の医療介護における倫理的ジレンマと意思決定

地域の医療や介護の現場では、患者さんやご家族の価値観、文化、そして社会的背景が、どのような治療やケアを選ぶかに大きく影響します。このセッションでは、実際の事例に基づいて医療者と会場の学生がネットを用いながら議論します。明確な正解がない状況で、どのように最良の判断を下すか、一緒に考えましょう!



Orange
オレンジバレーンフェスタ
Balloon Festa

同時開催)

帝京平成大学薬学部 第11回区民講座・お薬相談会
11月10日(日) 13:30~

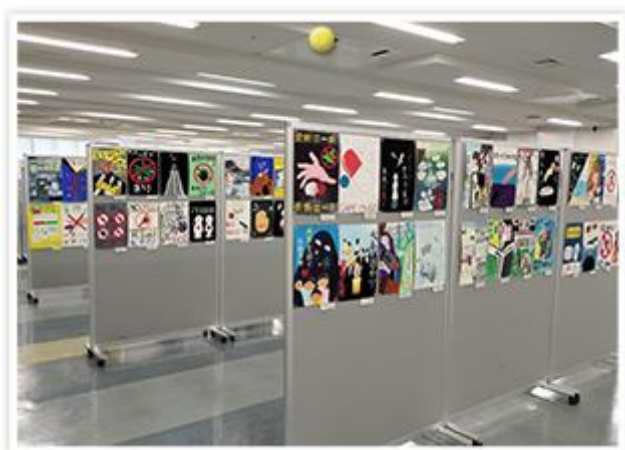
お問い合わせ:
帝京平成大学 中野キャンパス総務課 ☎ 03-5860-4711
(オレンジバレーンフェスタ中野2024・第11回区民講座)

Orange Balloon Festa

8) 薬物乱用防止キャンペーン

2024年11月9日(土)、10日(日)に開催された学園祭(四季祭)において、東京都薬物乱用防止推進中野地区協議会と共に「薬物乱用防止キャンペーン」を実施した。このキャンペーンは、2013年に中野キャンパス開設以来、毎年実施している。中野区内の中学生が作成した薬物乱用防止ポスター及び標語を展示し、薬物乱用防止の啓発を行った。来訪者は延べ約300名と多くの地域の方にキャンペーンの会場に来院いただいた。

また、四季祭2日目には、薬物乱用防止ポスター、標語作品の最優秀賞、優秀賞、及び、帝京平成大学学長賞の表彰式が開催された。参加者に本学地域連携部の学生による「薬育」が披露され、医薬品の正しい使い方について広く啓発する機会を得ることができた。



9) 卒後教育

無菌調製技能習得研修会

東京都の委託を受け、「2024年度地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業」の一環として、「無菌調製技能習得研修会」を、2025年3月2日（日）、9日（日）に本学無菌調剤実習室を使用して開催した。研修会の目的は、在宅医療に関する知識・技能を有する薬剤師の養成・確保、地域住民に対するかかりつけ薬剤師・薬局機能の普及、薬剤師・薬局の地域包括ケアシステムへの参加促進を図ることである。対象者は、東京都薬剤師会会員を中心に注射薬の無菌調製の初心者とし、研修内容は、手洗い、手袋の脱着、アンプルカット、シリンジの取扱い、薬液の採取、混合調製など、無菌調製に係る初歩的な技能となっている。

受講者は60名で、本学教員8名、東京都薬剤師会委員8名が実地指導に当たり、修了者には修了書が授与された。

(8) その他の行事

1) 父母等対象説明会

毎年、薬学部では5月下旬に新入生の父母等を対象とした説明会を開催している。2024年度は5月25日(土)に約3時間の日程で開催した。本年度は118名が中野キャンパスで、42名がオンライン参加した。説明会では、薬学部長が薬学部のカリキュラム、教務担当が教務関連、学生担当が大学生活、薬学教育研究センター長が学修支援について、それぞれ説明して保護者に理解と協力を求めた。次いで、事前のアンケートで寄せられた質問に回答し、その後、現地参加の父母等やオンライン参加者からの質問に回答した。最後に現地参加の父母等は、薬学部の調剤実習室、無菌調剤実習室、学生相談室などの施設、研究室、及び薬用植物園を見学した。

<p>新入生父母等対象説明会 2024年5月25日(土) 13:00~16:00、現地参加者 118名 オンライン参加者 42名</p> <p>① 薬学部のカリキュラム -入学から卒業まで-(薬学部長)</p> <p>② 教務関連の説明(教務担当)</p> <p>③ 大学生活について(学生担当)</p> <p>④ 学修支援について (薬学教育研究センター長)</p> <p>⑤ 質疑応答</p> <p>⑥ 薬学部施設見学</p>

また、2023年度から新5年生父母等対象説明会、及び新6年生父母等対象説明会を実施していたが、2024年度からは6年生(卒業延期生)父母等対象説明会(いずれもオンライン)を新たに実施することとした。今年度は以下の日程で実施した。

新5年生父母等対象説明会	新6年生父母等対象説明会	6年生父母等対象説明会
<p>2025年2月1日(土) 13:00~14:30、参加者 107名</p> <p>① ご挨拶(薬学部長)</p> <p>② 実務実習について (実務実習担当)</p> <p>③ 実務実習成果報告 薬局実習・病院実習(新6年生)</p> <p>④ アドバンスセミナーⅢ・Ⅳについて(セミナー担当)</p> <p>⑤ 卒業研究について (卒業研究担当)</p> <p>⑥ 国家試験について (6学年主任)</p> <p>⑦ 就職について(就職担当)</p> <p>⑧ 学修支援について(薬学教育研究センター長)</p> <p>⑨ 質疑応答</p>	<p>2025年3月1日(土) 13:00~14:15、参加者 48名</p> <p>① ご挨拶(薬学部長)</p> <p>② 卒業研究について (卒業研究担当)</p> <p>③ 卒業と国家試験について (6学年主任)</p> <p>④ 学修支援について (薬学教育研究センター長)</p> <p>⑤ 先輩からのメッセージ (薬学教育研究センター長)</p> <p>⑥ 就職について(就職担当)</p> <p>⑦ 質疑応答</p>	<p>2025年3月15日(土) 13:00~14:05、参加者 27名</p> <p>① ご挨拶(薬学部長)</p> <p>② 卒業までの過ごし方について -学修支援、就職活動、 薬剤師国家試験等- (薬学教育研究センター長)</p> <p>③ 授業について (薬剤師国家試験委員会)</p> <p>④ 質疑応答</p>

2) 公開講座

1. 区民講座

区民講座は薬学部と中野区薬剤師会との地域医療連携協定に基づいて実施されており、区民に対する健康・福祉支援、啓発を目的としている。本講座は、本学が中野に移転した 2013 年度から毎年開催されており、本年度は、第 11 回として 2024 年 11 月 10 日（土）に中野区薬剤師会との共催、中野区後援で実施された。プログラムは第 1 部が建部卓也助教による講演「認知症について考えよう」と伊東育己講師による講演「ドラッグストアのおくすり」、第 2 部が中野区薬剤師会による「お薬相談」と中野区中野地域包括支援センターによる「介護・医療相談」で、薬を正しく使い、健やかな生活を送るために必要な知識を地域住民に提供した。

講座案内は中野区役所発行の広報誌、掲示板、なかのまちめぐり博覧会などを通じて連絡し、地域住民全体に本講座への参加を呼び掛けているが、毎年参加者が 30～40 名と少なく参加者の増員方法が課題となっている。

2. 夏休み親子薬学教室

「夏休み親子薬学教室」は、主に中野区在住の小・中学生を対象に、親子で薬学への探究心を育てるように企画された。本年度は 8 月 17 日（土）（午後 1～4 時）に生物学実習室で実施された。参加した中野区内外の小・中学生とその保護者は計 54 名（保護者は 24 名）、運営スタッフは計 14 名（本学教員 6 名、学生スタッフ 8 名）であった。

本年度のプログラムは、運営スタッフの紹介、生薬についての説明の後、漢方薬・紫雲膏の調剤、生薬標本の作成、煎じ薬の調剤、生薬をオブジェクトとした万華鏡やハーバリウムの作成、薬研（やげん）を使った生薬の粉末作りなど、親子で楽しめる体験学習が盛りだくさんで、参加者は親子で真剣に作業に取り組んでいた。また、薬用植物園見学も実施し、身近な薬草に触れるなど、盛況のうちに終わることができた。

本企画は、薬学部の学生にとっても、参加者の体験をサポートすることにより、知識のアウトプットやコミュニケーション力を養う格好の場となっている。



3)FD/SD活動

1. 講演会

大学 FD 委員会主催の FD/SD 講演会が以下のように開催され、薬学部からも多数の教員が聴講した。講演会は当日の対面とライブ配信、及び講演会後のオンデマンド配信を併用して行われた。

第1回 講演日：2024年11月11日

- ・内容：「健康医療スポーツ学部柔道整復学科における国家試験対策について～過去の実施方法と今後の展望紹介～」
- ・講師：高橋 勇二 先生（健康医療スポーツ学部 柔道整復学科）

第2回 講演日：2024年11月20日

- ・内容：「学生参加型授業の促進にむけた MicrosoftIT ツールの活用例」
- ・講師：小森 次郎 先生（人文社会学部 経営学科）
新井田 宇謙 先生（人文社会学部 人間文化学科）
吉岡 剛志 先生（人文社会学部 経営学科）

第3回 講演日：2024年1月10日

- ・内容：「Microsoft Copilot (AI アシスタント) を活用した教育内容の充実～体験を通して AI の理解を深める～」
- ・講師：庄司 一也 先生（健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科）

第4回 講演日：2024年2月21日

- ・内容：「2025年度の授業づくりにおいて、授業の構成、パワーポイントやワークシートの活用、アクティブラーニングへの取り組みなど、実際に授業を実践する中で得た知見の紹介」
- ・講師：中村 玲子 先生（健康メディカル学部 心理学科）
奥井 智一郎 先生（人文社会学部 児童学科）

薬学部 FD 委員会主催の FD 講演会としては以下のように実施した。

第1回 講演日：2024年6月24日（月）

- ・内容：「学生が主体的に理解を深める対話型の授業設計～学習科学の知見を活かして～」
- ・講師：益川 弘如 先生（青山学院大学教育人間科学部教育学科）

第2回 講演日：2025年3月3日（月）

- ・内容：「次世代医療への貢献 ー薬剤師の求められる職能と責務ー」
- ・講師：武田 泰生 先生（日本病院薬剤師会会長）

2. 公開研究授業、合評会

公開研究授業後の合評会が大学 FD 委員会主催で各キャンパスにおいて前後期に開催されているが、

薬学部が設置されている中野キャンパスでは2024年度は下記のように開催され、薬学部からも多数の教員が参加した。話題提供は、当該期の公開研究授業において、大学FD委員会が重点公開研究授業と指定した授業の担当教員が行っている。

1) 前期合評会 2024年7月25日

- ・内容：重点公開研究授業「特別活動の指導法」に対して準備されている教材・教具、意義などについて紹介

- ・話題提供者：齊藤 勝 先生（人文社会学部 児童学科）

2) 後期合評会 2025年1月16日

- ・内容：重点公開研究授業「地域生涯学習論」に対して準備されている教材・教具、意義などについて紹介

- ・話題提供者：鈴木 邦明 先生（人文社会学部 児童学科）

4) 総合防災訓練

中野キャンパスの校舎は、基礎免震構造（地震の揺れを吸収し建物の揺れを緩和する）により、地震による大きな被害を受けにくくなっているが、薬学部では災害時に備えて様々な取り組みも行っている。その取組の一環として、大規模地震の発生、その後に火災の発生を想定した第一回総合防災訓練と、実習室・実験室での火災及びその救護を想定した第二回総合防災訓練を実施した。

第一回総合防災訓練は、2024年12月11日（水）に実施された。事務局職員等で構成された自衛消防隊を中心に、避難対象教室の教職員・学生の総勢300名以上が訓練に参加し、初期消火・安全防護・通報連絡・避難誘導訓練・ケガ人の応急救護訓練が行われた。薬学部は避難対象教室に該当しなかったが、地震発生時の自助行動を行った。訓練の主な内容を以下の表に示した。

第一回総合防災訓練 実施スケジュール

時間	訓練の流れ	内 容
12:20	館内放送（予告）	防災訓練のお知らせ
14:35		
15:40	地震発生	各自、身の安全を確保
	館内放送（地震発生）	防災センターから放送。自助行動を促す
↓	防災センター集合	自衛消防組織が防災センターへ集合
↓	被害状況の確認	防災センター員が被害状況の確認を行う。各班待機
15:45	火災報知器発報	初期消火班・・・火点現場確認・初期消火活動 通報連絡班・・・119番通報（訓練通報）・館内放送 安全防護班・・・防火扉の閉鎖状況確認 応急救護班・・・救護所の設営・負傷者救護 避難誘導班・・・学生の避難誘導開始
	火災確認・初期消火	
	館内放送（火災発生）	
	防火戸閉鎖	
	負傷者発生・救護	
避難誘導		
15:50	学生・教員避難開始	避難誘導班の指示に従い1Fに避難
16:05	学生・教員避難完了	各教室単位で人数を数え、避難者数を確認
16:10	学生・教員解散	
↓	防災センター集合	防災センターに集合し、各班自衛消防隊長へ完了報告
	講評・反省	
16:15	訓練終了	
	館内放送	訓練終了のお知らせ

薬学部の研究安全委員会の要望により、実習室、実験室の火災における初期消火、避難、応急救護を目的とした防災訓練が2023年度より開催されている。2024年度は、2025年3月3日（月）13:00～15:00に第二回総合防災訓練として、教室及び食堂前中庭を使用して実施された。中野消防署員6名が来学し、実験に従事する教員22名、職員（自衛消防隊員）7名、及び4～5年生（実験を行う卒業研究生）16名が訓練に参加した。訓練の内容を以下に示した。

【訓練内容】

①防災講義

実験室（危険物）の火災に関わる中野消防署員による講義（30分）

②消火訓練

- ・水消火器を使用した操作訓練（30分）
- ・屋内消火栓の操作説明（10分）

③応急救護訓練

訓練人形を使用した心肺蘇生法・AEDの操作訓練（30分）

※参加者を3グループに分けて講義・訓練をローテーションで実施する。

（避難訓練として、事前学習で「ネットで自衛消防訓練」を視聴し、チェックシートに記入した）



2023年度と2024年度の2回の防災訓練における学生の参加は、実験を行う4～5年生の卒業研究生のうち、4年生は実務実習待機学生に限られていたが、今後は実験系の卒業研究に配属された4年生全員を対象として行う予定である。

5) 実務実習全体説明会

実務実習開始前に、実務実習施設の指導薬剤師の先生に対して、本学の実習への取り組み、実習施設との連携体制及び実習の評価方法などについて説明し、本学と実習施設との相互理解を図り、円滑に実習が行えるように努めている。

2024年度は、2025年1月20日（土）に「実務実習全体説明会」をオンラインと対面のハイブリッド形式で開催した。指導薬剤師等の参加者は81名で、Webでの参加は69名（薬局49名、病院20名）、対面での参加は12名（薬局8名、病院4名）であった。

【説明会次第】

1 2024年度実務実習について

病院・薬局と本学との連携等の実務実習実施に関する本学の考え方について、実務実習委員会委員長 清野敏一教授が説明した。

2 「実務実習進捗管理ツール」について

実務実習委員会委員 渡辺達也教授が日報などのWebシステムについて説明を行った。

3 実習の実例

薬局実習の実例として、ヒロ薬局の杉山宏之先生が発表された。また、病院実習の実例として、東京医科学研究所附属病院の黒田誠一郎先生が発表された。

4 質疑応答

4. 研究活動

(1) 研究発表

2024年度における、ユニット別の学会発表数、論文数（原著）・論文数（記事・総説）、著書数は以下の表の通りである。なお、各ユニットの研究活動及び学会発表数、論文数（原著）・論文数（記事・総説）、著書数に関する詳細は、研究紀要委員会が編集した「2024年度 帝京平成大学薬学部 研究活動報告書」に記載されている。

部門 センター	ユニット	学会発表数	論文数 (原著)	論文数 (記事・総説)	著書数
細胞機能 教育研究部門	細胞生化学	2			
	膜機能	2			
	分子細胞制御	1	1		
	遺伝子機能解析	1			
生体防御 教育研究部門	生体制御	2	1		
	抗体DDS	4	1		
	タンパク質科学				
医薬品機能 教育研究部門	薬物動態学	10			
	薬理学	3	1		
	薬物治療学	3	3		
	生理・病態学	1	4	2	
創薬基盤 教育研究部門	創薬科学	5			
	物理薬剤学	16	2	1	
	薬品分析学				
	医薬有機化学	4			
	天然医薬資源学	8		1	
社会薬学教育研究 センター	薬事・情報学	2	1		
	薬剤疫学	2	1		
	医薬統計学	5	7		
	医薬品安全性評価学	16	5	3	
	医療倫理学	2	2		
	実践地域連携	2	2	1	
薬学臨床教育研究 センター	病院薬学	9	8	17	
	地域薬局学	6	3	3	
	臨床薬物治療学	2	1	3	
	治療評価学	5			
薬学教育研究 センター	薬学基礎教育	1	1		
	医療薬学系教育	1	2		
	学習支援	3	2		

(2) 語る会（研究交流会）

薬学部では、研究活動の活性化を促し、さらなる研究の発展につなげることを目的として、定期的に研究交流会を開催している。2021年度からは名称を「語る会」に改称し、研究成果の発表のみではなく、演者の考えを自由に語る会として開催している。異なる分野の研究者との交流を通じて、研究協力の促進や新たなアイデアの発見など、今後の研究に資することを目指している。

2024年度は、合計4回の「語る会」を実施した。日時、演者、講演時間、演題名は以下の通りである。

	日時	演者	講演時間	演題名
第1回	7月2日	鈴木正論	18時～18時45分	循環器領域における薬剤師による新たなエビデンス創出を目指して
第2回	8月22日	窪田剛志	18時～19時20分	ひとのこころ、マウスのこころ
第3回	10月23日	石川和樹	18時～18時50分	微生物のものづくり
第4回	12月12日	佐村優	18時～18時50分	臨床への還元を目指した医薬品適正使用に関する研究

第2章 大学院薬学研究科

1. 教育活動

本学大学院薬学研究科では、薬学部6年制課程に続く博士課程（4年制）を設置している。

（1）研究科教員

亀井 美和子、並木 徳之、高橋 美樹子、小松 俊哉、西村 千秋、名取 威徳、菊地 真実、清水 俊一、斎藤 浩美、井手口 直子、高松 智、伊佐間 和郎、渡邊 伸一、小林 秀昭、八代田 英樹、小原 道子、濃沼 政美、中谷 良人、大西 敦、丸山 桂司、平 裕一郎、山本 佳久、秋山 晴代、池本 守、小川 裕子、磯田 勝広、平 郁子、西川 毅、大野 賢一、鈴木 達彦、吉田 卓史、濱田 和真、後藤 芳邦、山元 健太、佐村 優

（2）入学者数・修了者数・学位授与者数

入学者 なし
修了者 なし

（3）在籍者数

3年 3名
4年 1名

（4）学年歴

9月13日（金） 予備審査申請書 提出期限
9月27日（金） 予備審査委員選出
11月1日（金） 予備審査発表会、論文提出可否判定、本審査委員選出
2025年1月6日（月） 本審査申請書 提出期限
1月21日（火） 本審査発表会・最終試験
1月31日（金） 本審査結果報告書 提出期限
2月3日（月）～7日（金） 特別審査会
※博士課程の論文審査対象者がいなかったため、2024年度実施なし
2月13日（木） 学位授与可否案判定
2月27日（木） 最終可否判定

（5）学位授与論文題目等

2024年度は対象者なし

第3章 薬学部運営組織の活動

1. 担当会議

1) 構成員

亀井 美和子（薬学部長）、清水 俊一（教務担当）、高松 智（学生担当）、平 裕一郎（研究担当）、
矢ノ下 良平（国家試験担当）、斎藤 浩美（広報担当）、清野 敏一（薬学臨床教育研究センター長）、
菊地 真実（社会薬学教育研究センター長）、畑 春実（薬学教育研究センター長）

2) 会議の開催

2024年4月8日（月）	2024年4月22日（月）
2024年5月13日（月）	2024年5月27日（月）
2024年6月24日（月）	2024年7月8日（月）
2024年7月22日（月）	2024年8月5日（月）
2024年8月26日（月）	2024年9月2日（月）
2024年9月17日（月）	2024年10月7日（月）
2024年10月21日（月）	2024年11月25日（月）
2024年12月24日（火）	2025年1月14日（火）
2025年1月23日（木）	2025年2月6日（木）
2025年2月13日（木）	2025年2月25日（火）
2025年3月5日（水）	2025年3月19日（水）

2. 運営会議

1) 構成員

薬学部全教授

2) 会議の開催

【第1回運営会議】（教員会議と合同開催）2024年4月26日（金）

【報告事項】

1. 2024年度 薬学部薬学科の教育目的と3つのポリシーの関連性
2. 学生関連
 - (1) 2024年度 新入生父母等対象説明会（5/25(土)）の準備状況
 - (2) 担任・チューター制度へのTeamsの活用
 - (3) 2024年度 薬学部新入生対象「学習に関する」アンケート
 - (4) 担任による1年生面談のお願い

(5) 2024 年度 薬学部新入生 健康状況アンケート

3. 広報関連

(1) 薬学部組織構成の各部門・センター・ユニット名の英語表記について

4. 薬学臨床教育研究センター関連

(1) 2024 年度第 1 回関東地区調整機構委員会（総会）報告書（一部抜粋）について

(2) 帝京平成大学薬学部と実務実習施設（病院・薬局）との連携体制（案）について

5. 薬学教育研究センター関連

(1) 2024 年度プレースメントテスト（化学）（2024 年 4 月 5 日実施）結果

(2) 白本テストの実施について（留年生対策）

(3) 「先輩に相談できる日」のサポーターの募集

6. 定例教授会報告

7. その他

(1) 2024 年度 薬学部定例会議日程

【第 2 回運営会議】2024 年 5 月 23 日（木）

【報告事項】

1. 教務関連

(1) 卒業研究関連の予定について

2. 薬学臨床教育研究センター関連

(1) 2024 年度 認定指導薬剤師養成 WS への大学教員参加者について

3. 2023 年度 薬学部薬学科「学修行動と学修成果の調査」の解析

【第 3 回運営会議】2024 年 6 月 27 日（木）

【報告事項】

1. 教務関連

(1) 2024 年度改定カリキュラム

薬学臨床実習・薬学研究・総合演習科目の選択必修科目の選択方法について

(2) 2023 年度以前入学生の 2025 年度以降卒業研究の振り分けについて

2. 学生関連

(1) 2024 年度 薬学部新入生 アンケート回答の追加分

(2) 中野キャンパス学生委員会報告

(3) 令和 6 年度（第 44 回）学生部長会の開催について

(4) 就職委員会報告

3. 薬学臨床教育研究センター関連
4. 進級不合格に関連する要因、科目等に関する検討
5. 定例教授会報告
 - (1) レジス大学との連携
6. その他
 - (1) 各種総会報告
 - ・日本私立薬科大学協会 令和6年度第1回通常総会（6/4開催）報告
 - ・薬学教育評価機構 2024年度 定時社員総会（6/20開催）報告
 - ・薬学共用試験センター2024年度定時総会（6/20開催）報告
 - ・全国薬科大学長・薬学部長会議 令和6年度第1回総会（6/21開催）報告
 - ・薬学教育協議会第23回社員総会（6/21開催）報告
 - (2) 臨床講師等の手続きについて

【第4回運営会議】 2024年7月25日（木）

【報告事項】

1. 教務関連
 - (1) 2024年度 6年生総括講義（後期）について
 - (2) 2024年度 6E 総合試験 本試験の結果について
 - (3) 2024年度 学修指導（面談）について
 - (4) 定期試験（本試験）後の補習について
 - (5) 1、2年進級に係わる GPA の算出と運用について
2. 学生関連
 - (1) 学生処分について
3. 薬学臨床教育研究センター関連
4. 定例教授会報告
5. その他
 - (1) 外部講師等の申請忘れ防止の学部内ルール
 - (2) 夏休み親子薬学教室の開催（予告）

【第5回運営会議（教員会議合同）】 2024年8月26日（月）

【審議事項】

1. 教務関連
 - (1) 2024年度 6E生 卒業判定

【報告事項】

1. 薬学臨床教育研究センター関連
 - (1) 実務実習の状況報告
2. 薬学教育研究センター関連
 - (1) 成績不良者への指導・面談について

【第6回運営会議（教員会議合同）】 2024年9月19日（木）

【審議事項】

1. 2、3年生の補習の実施について

【報告事項】

1. 学生関連
 - (1) 学生処分について
2. 薬学臨床教育研究センター関連
3. 定例教授会報告
4. その他
 - (1) 日本薬学会シン・全国学生ワークショップ参加報告会

【第7回運営会議】 2024年10月24日（木）

【審議事項】

1. 2024年度「学修行動と学修成果の調査」薬学部独自項目について

【報告事項】

1. 学生関連
 - (1) 2025年度 父母等対象説明会 日程案
2. 国家試験対策関連
 - (1) 個別面談の実施について
3. 薬学臨床教育研究センター関連
 - (1) 実務実習報告
 - (2) 認定実務実習指導薬剤師WSについて
4. 社会薬学教育研究センター
 - (1) セミナー科目リフレクション面接について
5. 薬学教育研究センター
 - (1) 入学前準備教育（2025年度入学予定者対象）について

【第8回運営会議（教員会議合同）】2024年12月2日（月）

【審議事項】

1. 定期試験科目への中間試験の導入について

【報告事項】

1. 教務関連
 - (1) 2024年度6年生薬学総括講義の中間試験1の結果
 - (2) 薬学研究IAでの最終発表会に向けた発表練習のお願い
2. 学生関連
 - (1) 中野キャンパス学生委員会報告
 - (2) 闇バイト及び盗難に関する注意喚起について
 - (3) 令和6年度（第44回）日本私立薬科大学協会学生部長会報告
3. 実務実習報告
4. 薬学教育研究センター
 - (1) ESS 医療系教育支援システム 運用概要について
5. 定例教授会報告

【第9回運営会議（教員会議合同）】2024年12月17日（火）

【審議事項】

1. 継続審議：定期試験科目への中間試験の導入について

【報告事項】

1. 薬学教育研究センター
2. その他
 - (1) 学修行動と学修成果の調査

【第10回 運営会議（教員会議合同）】2024年12月24日（火）

【審議事項】

1. 2024年度6年生中間試験の結果について

【報告事項】

1. 学生関連
 - (1) 父母等対象説明会（最終案と進捗状況）
2. 実務実習報告
3. 薬学教育研究センター関連
 - (1) 2024年度後期 学修到達度確認白本試験（1年生）の結果

4. その他

(1) 学修行動と学修成果の調査

【第11回運営会議（教員会議合同）】2025年2月6日（木）

【審議事項】

1. 2024年度 薬学総括講義 定期試験結果について
2. 2024年度 6年生卒業判定案について
3. 2025年度 薬学部3 ポリシー及びアセスメント・ポリシーについて

【報告事項】

1. 学生関連

- (1) 2025年2月1日（土）開催の新5年生父母等を対象とした説明会の参加状況
- (2) 今後の日程
 - 3月1日（土）新6年生父母等対象説明会（オンライン）
 - 3月15日（土）6年生（6E対象）父母等対象説明会（オンライン）
- (3) 第11回学生委員会（中野キャンパス）報告
不正行為について

【第12回運営会議（教員会議合同）】2025年2月13日（木）

【審議事項】

1. 2024年度 4年生進級判定案について

【第13回運営会議（教員会議合同）】2025年3月5日（水）

【審議事項】

1. 2024年度 1～3年生及び5年生進級判定案について

【報告事項】

1. 留年生への連絡のお願い
2. 学生関連
 - (1) 新6年生父母等対象説明会報告
3. 教務関連
 - (1) 第110回薬剤師国家試験の自己採点結果の状況
 - (2) 2025年度 6年生総括講義（案）
 - (3) 2025年度 5年生待機演習（案）
 - (4) 2025年度 6E生 総括講義と薬ゼミ講習会

4. 実務実習報告
5. 定例教授会報告
6. その他
 - (1) 2025 年度 薬学部教員組織 (案)
 - (2) 2025 年度 学年担任 (案)
 - (3) 2025 年度 委員会構成 (案)

【第 1 4 回運営会議 (教員会議合同)】2025 年 3 月 19 日 (水)

【審議事項】

1. 薬学部における会議運営の改善策について

【報告事項】

1. 教務関連
 - (1) 薬学部教務委員会 申し合わせ事項
 - (2) 2025 年度 薬学部学事日程
 - (3) 2025 年度の 4 年生卒研配属方法の変更について
2. 学生関連
 - (1) 父母等対象説明会報告
3. 薬学部 FD ワークショップ報告
4. 実務実習報告
5. 薬学部自己点検評価関連

3) 自己点検・評価

2024 年度の開催回数は 14 回であり、年度初めの専任教員説明会分科会において提示した通りの日程で概ね開催できた。14 回のうち対面のみでの開催は 12 回、Teams によるオンライン会議は 2 回で、出席率はいずれの回も 75%以上であった。

審議事項に係る議題の多くは教務関連であり、概ね提示案どおりに承認がなされた。教務関連の審議事項の一部については 2 件、継続審議となったが、後日、承認された。

また、3 月に、教授 2 名から薬学部の会議運営に対する改善要望が提出され、その改善策について審議した。審議を踏まえ、運営会議の審議事項については、可能なものに限り、事前に議題と資料を共有することになった。

4) 今後の対応

次年度も、原則、対面により月 1 回は開催し、大学及び学部運営に係る事項の審議・報告を行う場とする。5 時限目以降の授業担当者等、出席できない教員が一部いるが、議題・資料・議事録を Teams

で速やかに共有することにより対応する。

会議運営については、従来通り、薬学部の各委員会又は担当会議での協議を経た議題を、運営会議にて審議・報告する。審議事項のうち可能なものについては、運営会議の前に議題と資料を提示することで、当日の円滑な審議につなげる。運営会議は教員会議と合同で開催することが多いため、教授以外の教員の発言を促し、学部教員全体の理解とコンセンサス形成に努めたい。

3. 委員会活動

(1) 薬学部教務委員会

1) 委員名

委員長：清水 俊一

委員：石井 正和、渡邊 伸一、高橋 美樹子、磯田 勝広、清野 敏一、矢ノ下 良平、
中谷 良人、小林 秀昭、斎藤 浩美、八代田 英樹、大野 賢一

2) 活動概要

【第1回委員会】2024年5月20日(月)

- 1) 2024年度改定カリキュラムの5～6年次の選択必修科目である薬学臨床実習・薬学研究・総合演習科目の選択方法については、学生を各教員に振り分けた後、教員と学生で相談して決める案が了承された。今後具体化する。また、これに伴い旧カリキュラム4年生の研究室配属についても個別研究と一般研究を廃止する方向で卒業研究委員会にて検討してもらうこととなった。
- 2) 教務関連事項の自己点検を行った。①5年待機演習の3時限目は、時間割から削除することとなった。②2024年度からこれまでの講義主体ではなく、自己学習・確認試験を主体とする形に変更した。
- 3) 2025年度2年次時間割のシミュレーションを開始する。また、3・4年次の Semester制 への変更についても検討することとなった。
- 4) 2023年度実力試験結果について報告され、1年生の成績は改善されている。しかし、全体的に欠席者が多いため、担任による指導を強化する。
- 5) 2024年度1Q定期試験時間割案が承認された。

【第2回委員会】2024年6月17日(月)

- 1) 2024年度改定カリキュラムの5～6年次薬学臨床実習・薬学研究・総合演習科目の選択必修科目の選択方法について、具体案が提示され承認された。

	薬学研究ⅢA (14単位)	薬学研究ⅢB (8単位)	薬学研究ⅢC (6単位)	アドバンス臨 床実習 (8単位)	総合演習ⅡB (6単位)
組合せ1	○				
組合せ2		○			○
組合せ3			○	○	

*組合せ2を標準、組合せ1はアドバンス的な卒業研究、組合せ3はアドバンス的な臨床研究(実習)という位置づけと考える。

- 2) 2023年度以前入学生の2025年度以降卒業研究の振り分け方法について、個別研究と一般研究に分けずに行うことが承認された。

- 3) 2025 年度 2 年次時間割作成の方針が示され、これに基づきシミュレーションを行うことが承認された。
- 4) 2024 年度 1Q 定期試験欠席者の追再試験受験資格について審査し、申請のあった全員を承認した。
- 5) 入学時より休学していた学生の復学に伴い、教務委員会として対応を審議し、承認された。
- 6) 2024 年度前期定期試験（本試験）時間割（案）が承認された。
- 7) 2024 年度 4 年生対象実力試験実施案が提示され、承認された。

【第 3 回委員会】2024 年 7 月 16 日（火）

- 1) 仮進級科目（X 科目）の成績通知時期について、現状と問題点が示され、継続審議事項とすることとなった。また、多職種連携やアカデミックスキルなど、レポートで評価している科目に関しては、X 科目の試験は実施せず、レポートでの評価を認めることとなった。
- 2) 慢性疾患を有する学生の実習科目・演習科目の対応について、現状と問題点が報告され、継続審議事項とすることとなった。
- 3) アーチブメントテストなどのデータを、IR 委員会で一元管理する必要があるのではないかと提案があり、検討することになった。

【第 4 回委員会】2024 年 8 月 26 日（月）

- 1) 薬学部履修規則と成績資料に基づき、6E 卒業判定案を審議し、原案通りで承認した。
- 2) 2024 年度 1Q 及び前期（本試験）欠席者の追再試験受験資格について審査し、申請のあった全員を承認した。
- 3) 薬学部 IR 委員会より、定期試験のエビデンス収集、成績関連資料の収集項目について説明があり、承認した。
- 4) 仮進級科目（X 科目）の実施方法の修正案が提示され、継続審議事項とすることとなった。
- 5) CBT 対策関連の試験の成績が下がっていることが報告され、対策について継続的に検討することとなった。

【第 5 回委員会】2024 年 9 月 24 日（火）

- 1) 2023 年度以降入学生（323・324）の再試験制度について、教員への周知徹底を改めて図ることとした。
- 2) 2024 年度 3Q 定期試験時間割案が承認された。
- 3) 4 年生不合格者対象 1～3 年次実力試験結果について報告があった。

【第 6 回委員会】2024 年 10 月 15 日（火）

- 1) 2025 年度からの中間試験の導入について案が示され、検討を進めることとなった。

【第7回委員会】2024年11月18日（月）

- 1) 2025年度からの中間試験の実施案が提示され、承認された。

【第8回委員会】2024年12月12日（木）

- 1) 2025年度からの中間試験の実施について、中間試験の得点割合、レポート等が含まれる場合の成績評価の方法など細部について案が提示され、承認された。
- 2) 2024年度卒業研究の成績が提示され、承認された。
- 3) OSCE本試験結果が報告された。また、1名に特例追試験を実施することも報告された。

【第9回委員会】2024年12月24日（火）

- 1) 6年「薬学総括講義」中間試験の結果について報告され、承認された。
- 2) 2024年度実力試験の実施案が示され、承認された。
- 3) 2025年1月24日（金）に「低学年の学生の対策について」というテーマで、ワークショップを開催することが報告された。

【第10回委員会】2025年1月14日（火）

- 1) 6年生「薬学総括講義」定期試験の結果が報告され、承認された。欠席者については、欠席届の提出があれば追試を認めることとされた。
- 2) 薬学部教務委員会申し合わせ事項の改訂について説明があり、承認された。
- 3) カリキュラム委員会に対して、2025年度シラバスの作成を急ぐように要請した。

【第11回委員会】2025年2月6日（木）

- 1) 6年生「薬学総括講義」追・再試験の結果が報告され、承認された。
- 2) 薬学部履修規則と成績資料に基づき、2024年度卒業判定案について審議し、原案通りで承認された。
- 3) 卒業研究のリフレクションシートを電子化することが提案され、承認された。
- 4) 2024年度1～3年後期本試験欠席者の追再試験受験資格について審査し、申請のあった全員を承認した。
- 5) 2024年度4年前期及び後期追・再試験欠席届提出者の再評価試験受験資格について審査し、申請のあった全員を承認した。
- 6) 休学者の実力試験の受験について、在学中に履修した授業科目分の実力試験は、受験を認めることとなった。
- 7) 2024年度CBT本試験の結果が報告された。

【第12回委員会】2025年2月13日（木）

- 1) 薬学部履修規則と成績資料に基づき、2024年度4年進級判定案について審議し、原案通りで承認された。

【第13回委員会】2025年3月5日（水）

- 1) 薬学部履修規則と成績資料に基づき、2024年度1～3年及び5年進級判定案について審議し、原案通りで承認された。
- 2) 薬学部教務委員会申し合わせ事項に、「1年薬学準備教育の演習科目（選択必修）の履歴を指定され不合格となった科目があり留年した場合について」を追記することが承認された。
- 3) 2024年度OSCE再試験の結果が報告された。
- 4) 2024年度CBT再試験結果が報告された。

【第14回委員会】2025年3月19日（水）

- 1) 2025、2026年度4年生卒業研究配属方法の変更案について審議し、承認された。
- 2) 新カリシラバスにおいて、改定コア・カリの学修目標がすべて網羅されていることが報告された。

【まとめ】

学事日程に基づいて、授業、試験、進級判定、卒業判定等を適正に実施した。新入生には、4月に新入生ガイダンスを行っているが、教務関連の説明時間が短いため、試験及び進級等に関するガイダンスを別途実施し、教務関連の重要事項について周知徹底を行った。

2024年度は、薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に伴い大幅なカリキュラム改定を行った。改定カリキュラムでは、2～4年次をこれまでのクォーター制からセメスター制に変更することが決まっている。これに対応するため、2025年度の2年次以降の前期と後期にそれぞれ中間試験を導入することを決めた。このように、カリキュラム改定に配慮した試験制度の策定にも取り組んだ。

3) 自己点検・評価

試験（本試験、追・再試験、再評価試験）は、厳正に、かつ適正に実施できている。また、進級判定及び卒業判定は、薬学履修規則の「進級」「仮進級」及び「卒業」の要件に基づき実施しており、適正である。また、2023年度入学生からの進級要件へのGPAの導入やそれに伴う試験制度変更に関する学生への周知や実施についても適正に運用できている。さらに、2024年度はカリキュラム改定を行ったため、1年留年生の科目読替等が発生したが、問題なく運用することができた。

4) 今後の対応

2024年度の1～4年の留年率が、いずれも20%前後と高かった。2023年度からの進級要件へのGPAの導入により、2024年度GPAのみが原因で留年した学生は、1年が0名、2年が若干名であった。学生

の学力を高め GPA が原因での留年者が出ないよう、また留年者を減らせるよう薬学教育研究センターと連携して補習などの対策を講ずるとともに、試験制度の周知徹底と活用の指導に努める。

(2) カリキュラム委員会

1) 委員名

委員長：中谷 良人

委員：矢ノ下 良平、丸山 桂司、菊地 真実、小松 俊哉、清水 俊一、大野 賢一

2) 活動概要

【第1回委員会】2025年2月13日（木）

- ① 新コアカリ対応カリキュラムの新コアカリ学修目標への対応状況
- ② 新規に開講する症例解析演習等の方略の検討

上記の2項目について協議し、項目①については未対応学修目標への対応を依頼する科目を決定した。項目②については、カリキュラム委員に症例解析演習の科目責任者、薬理・薬物治療、薬剤、臨床系教員を加えたワーキンググループを立ち上げ、実施方略の検討を進めていく方針を決定した。

3) 自己点検・評価

年間における会議の開催が1回に留まってしまった。これは、新コアカリキュラム導入に伴う本学カリキュラムの大幅な見直しに時間を要したためであり、来年度以降は新規科目の実施に向けた協議を本格的に実施する予定である。本年度はその足掛かりを築けたと考えている。

4) 今後の対応

年間における会議の開催を多くし、新規科目が多く開講される2026年度以降のカリキュラムの実施方法を具体化するための協議を進めていく。

(3) 薬学部学生委員会

1) 委員名

委員長：高松 智

委員：大野 まき（副委員長）、石井 正和、窪田 剛志、栗坂 知里、清水 芳実（学園祭部会員）、

清野 敏一、高橋 美樹子、畑 春実、矢ノ下 良平、渡邊 伸一、渡辺 達也

2) 活動概要

【第1回委員会】2024年6月28日(金)

【協議事項】

1) 学生の態度と行為について

学生の不適切な態度と行為に関して協議した。

【第2回委員会】2024年8月1日(木)

【協議事項】

1) 令和6年度（第44回）学生部長会の承合事項案について

令和6年度（第44回）学生部長会が本学の主催で11月29日(金)に開催されるにあたり、承合事項の募集を行い、以下の4件を提案候補とすることとした。

1. 担任制度について
2. 学年主任制度について
3. 国際交流について
4. 健康状況アンケートについて

以上の提案については、現時点では優先順位を付けずに他大学からの提案を考慮して決定することが委員会で承認された。

【第3回委員会】2024年11月8日(金)

【報告事項】

1) 2024年度中野キャンパス学生委員会報告 第1～7回

第1～7回学生委員会の報告を委員会で共有した。

2) 中野キャンパス学園祭部会 第1～2回

2024年度学園祭の日程と準備状況を委員会で共有した。

3) 令和6年度（第44回）日本私立薬科大学協会学生部長会報告

本学主催の学生部長会の準備状況と式次第を委員会で確認した。

4) 2025年度父母等対象説明会（日程案）

2025年度の新5年生、新6年生、新入生父母等対象説明会の日程を委員会で共有した。さらに今年

度より卒業延期となった6年生の父母等対象説明会（名称 6年生父母等対象説明会）が企画されることとなり、その開催の経緯と内容を報告し、委員会で共有した。

5) 闇バイト及び盗難に関する注意喚起について

全学年の学生に「闇バイト及び盗難に関する注意」について注意喚起が行われ、その経緯が報告された。また、最近の薬学部学生の盗難被害の事例を委員会で共有した。

6) 懇親会経費について

学生懇談会経費補助申請については、従来通り学年主任が学年ごとにまとめて申請することを委員会で確認した。

3) 自己点検・評価

学生間のトラブルについては、委員会への連絡用メールを設置しており、日頃より学生へ周知している。そのためトラブルが大きくなる前に相談が寄せられるようになり、担任や他の部署と協力して早めに対処している。メンタル面の問題を抱える学生も増えており、保健室、学生相談室、学生支援チームと積極的に情報共有して合理的な配慮を行なっている。

担任は1～3年生の学生を受け持っており、学年横断懇談会を毎年2回行っている。しかし、各学年の時間割を鑑みると、一堂に会する日程の調整が難しく、参加者からも不満の声が出ている。以上の反省を踏まえて、委員会で継続して協議していく。

従来行ってきた新入生父母等対象説明会に加えて、実務実習の開始直前の新5年生、最終学年の新6年生、卒業延期となった6年生の父母等対象説明会を実施した。それぞれの節目の時期に合わせて、父母等への説明責任を果たし、父母等への理解と協力を求める良い機会となった。

4) 今後の対応

学年横断懇談会は、サークルや部活動を除き、普段接することのない学年との貴重な交流の場となることを目的に実施してきた。日程調整は各担任に委ねていたが、各学年の時間割から調整は困難を抱えていた。その対策として、カリキュラム委員会に全学年が学年横断懇談会に参加できるように時間割を調整してもらうことを検討している。

新入生、5～6年生の父母等対象説明会を継続する。特に卒業延期となった6年生の父母等からは、4月以降の方針が示されたことで不安が解消されたなどの意見も寄せられ、説明会の重要性を再確認することができた。

近年、学生からの相談が、学習に関する内容、生活・経済的内容、進路・就職関連、身体的・精神的 content など多岐に渡るようになり、個々の担任では指導や回答が困難なケースが多くなってきている。それゆえに、担任や学生支援チームと協力して、学生や父母等との面談等を積極的に行い、学部としての責任を持った立場として対応していく。さらに、各教員が多様な学生の問題の現状の把握と対処ができるように、FD企画委員会と連携してセミナーなどの開催を企画する。

(4) 薬学部就職委員会

1) 委員名

委員長：名取 威徳

委員：小原 道子（副委員長）、渡邊 伸一、赤木 祐介、鈴木 正論、吉田 貴行

2) 活動概要

【第1回委員会】2024年8月29日（木）

【第2回委員会】2025年3月4日（火）

1. 学内ルールの確認

推薦状の発行ルール、「キャリアナビ」の運用促進等を学内で共有

2. ガイダンス類開催・参加

2024年4月2日 就職セミナー（池袋キャンパス）

2024年4月3日 上級生ガイダンス（4年生）

2024年4月3日 上級生ガイダンス（3年生）

2024年8月6日 5年生「就活ガイダンス」

2024年11月10日 父母等ガイダンス

2024年12月～ 4,5年生向け「業界研究セミナー」（オンライン配信）、

2025年1月15日 「マナー講座」（オンライン配信）

2025年2月1日 新5年生父母等説明会、

2025年2月7日 新5年生上級生ガイダンス

2025年3月1日 新6年生父母等説明会、

2025年3月4日 「国家試験後フォロー」

5、6年生対象の5年生「就活ガイダンス」（8月実施）及び「薬学業界セミナー」（12月実施）に加えて、早期キャリアプラン形成を目的として3、4年生の上級生ガイダンスにおいて就職活動に関するガイダンスを行った。「薬学業界セミナー」はオンデマンド配信として実施し、対象を4年生に広げた。また、父母説明会において就職委員会の活動の説明を行い、学生だけではなく家族にも向けて就職活動に対する意識づけを行った。薬剤師国家試験の合格発表後に就職活動を行う学生を支援するために、3月に「国家試験後フォロー」を実施した。

3. トラブル対応

就活終われハラスメント、また就職内定後の内定取り消し問題に対応した。

4. 学内会議体参加

キャリア委員会への参加（計5回）及び就職支援室との打ち合わせ（非定期）を行った。

5. 関連作業

ポータルサイト（manaba）準備、6年生就職活動状況調査（計4回実施）、外部採用担当者面談（4社）を行った。

3) 自己点検・評価

コロナ禍の収束後、学生の就職活動はオンライン面接など多様化してきており、就職委員会として個別のフォローにも対応を行ってきた。また低学年向けのキャリアプラン形成に対する働きかけは着実に機能しており、4年生からの就職に対する質問も増えてきている。将来的な「薬のエキスパート」として多様な社会貢献像を描いた上で、個人個人に合った就職活動にタイムリーに臨むことができるように委員会として、就職支援室と協力してさらに工夫していくことが課題である。

4) 今後の対応

原則として本年の活動を継続する。採用活動の早期化を受けて、5年生向けの就職活動ガイダンスは、8月から5月に前倒しして実施予定である。

(5) 研究運営委員会

研究運営委員会の運営は、研究を行う全教員に対して、当該年度予算案の審議及び年度当初の各種申し合わせ事項を確認する必要があるため、研究活動に従事する全教員が参加する「研究総会」を審議の場としている。

1) 委員名

委員長（研究総会議長）：平 裕一郎

委員：磯田 勝広、小原 道子、菊地 真実、濃沼 政美、島崎 学、高橋 美樹子、山本 佳久、
渡邊 伸一、小川 裕子、後藤 芳邦、西川 毅、濱田 和真、山元 健太、山本 伸一郎、
赤木 祐介、金 憲誠

2) 研究総会開催

開催日：2024年4月15日

3) 活動概要（2024年度 研究総会審議事項）

1. 2023年度研究支出実績
2. 2024年度予算案
3. 各種機器担当者の選任
4. 消耗品購入担当者の選任
5. 研究会「語る会」の予定
6. その他（2024年度 コラボフロー申請方法等）

4) 自己点検・評価

年度を通じて概ね支障なく運営できたと評価している。

5) 今後の対応

総会での審議内容は委員長が原案を作成し、内容の共有と精査を図るため「研究運営委員会」に諮った後、研究総会において最終的に審議・決定を行う予定である。

(6) 薬学部広報委員会

薬学部広報委員会は、下部組織として「薬学部ホームページ委員会」と「薬学部オープンキャンパス委員会」を設置して活動しており、薬学部広報委員会委員長がこれら2つの委員会を統括している。

薬学部広報委員会 委員長：斎藤 浩美

(6-1) 薬学部ホームページ委員会

1) 委員名

委員長：斎藤 浩美

委員：後藤 芳邦、西川 毅、栗坂 知里、伊佐間 和郎、吉田 貴行、世永 由里子、高木 彰子

2) 活動概要

薬学部ホームページ委員会は、大学情報センターと連携して薬学部特設サイト（ホームページ）による情報発信を円滑に進めるよう活動した。定期的な情報更新に加え、薬学の教育、研究活動、地域連携活動などについて新しい情報を収集して、薬学部の特徴や魅力を学外に向けて発信した。また、薬学部の学生、教員による活動について情報提供し、大学ホームページにも掲載した。

【第1回委員会】2024年8月26日（月）

- 1) 薬学部特設サイト更新作業の進捗状況、更新手続きについて確認した。
- 2) 特設サイトの今後の更新予定と分担について確認した。
- 3) 特設サイトの英文サイトの作成にあたり、英文ページの構成について検討した。
- 4) 特設サイトのコンテンツの見直し・再構成などについて検討した。

3) 自己点検・評価

薬学部特設サイトについては、新年度の組織構成等の更新からスタートし、新任教員の紹介、薬学部の学生、教員が関わるさまざまなイベントの開催案内と報告、その他既存のコンテンツの更新を順次進めた。特に薬学部学生による「薬育」、「健康茶房」などの地域連携活動については積極的に掲載した。一方で、古い情報の整理・削除が不十分なページが残っており、特設サイトのコンテンツの見直しについても少しずつ進めているが、この点も今後の課題である。さらに薬学部英文サイト作成に向けてその構成を決定し、薬学部の各研究ユニットに英文のユニット紹介原稿を作成してもらった。当初の予定よりやや遅れてしまったが、2025年度の完成に向けての準備はできた。

4) 今後の対応

薬学部特設サイトでは、大学サイトとの違いを明確にして方向性を定め、情報センターと協力して薬学部の特徴や魅力が伝わるようなコンテンツをさらに検討していきたい。また特設サイトでの情報発信が滞りなく迅速に進むように体制を整えることが必要である。また、オープンキャンパス委員会

と連携して、薬学部パンフレットの掲載内容と整合性をとり、最新の情報を提供していく。SNS (X) については、高校生に対して積極的に薬学部の魅力を伝えるため、特設サイトに誘導するツールとして有効活用することを考えていきたい。

(6-2) 薬学部オープンキャンパス委員会

1) 委員名

委員長：井手口 直子

委員：濃沼 政美、青木 一真、大野 まき、栗原 健一、小原 道子、高崎 浩太郎、山元 健太

2) 活動概要

オープンキャンパス委員会の役割は以下の2つである。

① 薬学部パンフレットの作成

内容与设计の見直しと提案、掲載学生の選出とコンタクト、撮影日程調整、外部撮影場所との交渉、撮影場所の設営と立会い、校正作業。

② オープンキャンパスの運営

内容の見直しと企画、教員の担当日の調整、模擬授業の依頼、薬学部リーフレットの作成と印刷。
バイト学生の手配、担当日の教員への各種連絡、当日の学科説明、模擬授業の進行、参加者の人数チェック、バイト学生の就業管理、報告。

【第1回委員会】2025年2月21日

- 1) 薬学パンフレットの撮影対象学生について、各学年で推薦する学生を委員で分担した。撮影日を策定し、撮影用小道具などの手配を確認した。
- 2) オープンキャンパスの反省点を振り返り、改善策を討議した。

3) 自己点検・評価

薬学部パンフレットについては、入試課とのコミュニケーションが重要であり、入試課の担当も、作成業者も毎年変更があることから、慣れている学部教員のほうから提案していくことが重要である。特に学生の手配と、撮影日の調整は学生と大学、業者の都合があるので配慮が必要である。薬学部の委員がパンフレット作成に慣れてきており、今年度は比較的スムーズに作成できたと評価する。

オープンキャンパスについては、大学として重要な行事であるので、今年度、薬学部も特設コーナーを増加させ、さらに学生が行う「薬育」のデモンストレーションを毎回の模擬授業後に行うなど、充実した内容が実行できた。

4) 今後の対応

広報活動の充実は入学者増加に密接に関連するので、今後も委員を頻繁に変えることなく、質の向

上をはかりたい。オープンキャンパスについては参加者の増加が一番の課題である。

(7) 薬学部自己点検委員会

1) 委員名

委員長：矢ノ下 良平

委員：亀井 美和子（学部長）、鈴木 達彦（副委員長）、清水 俊一（教務）、高松 智（学生）、
中谷 良人（カリキュラム）、小林 秀昭（IR）、清野 敏一（薬学臨床教育研究センター）、
畑 春実（薬学教育研究センター）、高橋 美樹子（卒業研究）、渡邊 伸一、渡辺 達也、
中埜 貴文

2) 活動概要

薬学教育の自己点検・評価体制は、「薬学教育自己点検・評価委員会」とその下部組織である「薬学部自己点検委員会」から構成されている。「薬学教育自己点検・評価委員会」は薬学部長を委員長とし、学長、副学長、教学マネジメント室長、中野キャンパス事務長、中野キャンパス総務課長、中野キャンパス教務課長、外部委員、及び薬学部教員から構成され、薬学教育の自己点検・評価を総括的に行っている。その下部組織である「薬学部自己点検委員会」は主要な薬学部委員会の委員長を中心とした教員（上記委員）から構成され、薬学部の教育・研究活動について実質的な自己点検・評価を行っている。

2つの委員会の活動について概要を以下に記載する。

・薬学教育自己点検・評価委員会

【第1回薬学教育自己点検・評価委員会】2025年3月11日（火）

出席者：藤川 健一副学長（教学マネジメント室長）、斎藤 美江子事務次長、和田 康継教務課長、外部委員（永田 泰造（東京都薬剤師会）、田極 淳一（東京都薬剤師会）、辻 健作（本学卒業生、病院薬剤師））、薬学部委嘱教員（矢ノ下 良平、高松 智、高橋 美樹子、平 裕一郎、小林 秀昭）

【審議事項】

議題1 薬学教育評価機構「大学への提言」に対する改善報告についての審議結果

議題2 2024年度薬学部事業計画

議題3 3ポリシー改定及びカリキュラム変更について

議題4 学修行動と学修成果の調査について

議題5 入学試験区分による修学状況の解析

【報告事項】

議題6 薬学教育評価（第2期）受審について

議題7 2025年度薬学教育評価 自己点検・評価について

2019年度に受審した第1期薬学教育第三者評価で指摘された事項についての改善報告書を2023年3月に提出し、その審議結果が2024年3月に公表された。概ね改善が行われたとの審議結果であったが、

6年次の卒業率が依然低いことが今後の課題である。

2024年度4月に策定した薬学部事業計画に基づいて、自己点検について説明した。また、2024年度新入生から薬学コアカリキュラムが改訂され、それとともなって3ポリシーの改定及びカリキュラム変更を行った。外部委員（東京都薬剤師会2名、本学卒業生1名）から改定された3ポリシーについて問題ないとの意見を頂戴した。議題4「学修行動と学修成果」及び議題5「入学試験区分による修学状況の解析」において学修成果と学生の受入について審議し、概ね妥当であると判断された。

2026年度に第2期薬学教育第三者を受審するにあたり、2025年度に評価基準に沿って自己点検・評価を行うので、実施概要と評価基準、ならびに薬学部自己点検員会で実施していく旨を説明し、了承された。

・薬学部自己点検委員会

【第1回薬学部自己点検委員会】2025年3月14日（金）

1) 第1回薬学教育自己点検・評価委員会の報告

標記委員会において、2024年度の自己点検・評価に対して教学マネジメント室長藤川先生及び外部委員から特別の問題はないとの意見をいただいた旨が報告された。

2) 2025年度自己点検・評価の準備について

2026年度の薬学教育評価（第2期）受審について、自己点検・評価から受審までのスケジュール案が説明され、調書執筆者の決定と事務方の調書作成担当者の紹介があった。

3) 自己点検・評価

- ・2024年度から薬学部IR委員会が発足し、質的・量的解析による自己点検体制を充実させた。
- ・2024年度入学生から新カリキュラムが適用されたので、シラバスの妥当性を今後検証していく必要がある。また、入学生の学力低下が数年前から顕著になっているので、低学年での対応が求められる。
- ・新しい3つのポリシーに対応した学修成果の評価方法を構築する必要がある。
- ・従来の担任制度において教員と学生の指導体制がやや疎になっているので、これを補う方法を考慮する必要がある。
- ・中野区での地域連携活動が活発に行われており、さらに充実させていく。

4) 今後の対応

- ・薬学部IR委員会による質的・量的解析を教育研究の改善に適切に反映できる体制を整える。
- ・新カリキュラムのシラバスの妥当性について、方略や学修内容を検証する。
- ・新しい3つのポリシーに対応した学修成果の評価方法を構築する。
- ・担任制度を十分に機能させて、学生生活のみならず学修態度の改善を図る。

- ・中野区で実施している地域連携活動を、教育内容にも反映させていく。
- ・第三者評価に向けて詳細な自己点検・評価を実施する。

(8) CBT委員会

1) 委員名

委員長：八代田 英樹

委員：磯田 勝広、大西 敦、青木 一真、高崎 浩太郎、戸田 雄大、大野 まき、吉田 卓史、

矢ノ下 良平、清水 芳実 (12月まで)

2) 活動概要

【第1回委員会】2024年8月30日(金)

CBT体験受験の試験監督の確認と、前日の試験室準備の確認をした。また、試験結果の返却方法の検討と担当教員の選出を行った。

【第2回委員会】2024年12月26日(木)

CBT本試験の試験監督の確認と、前日の試験室準備の確認をした。また、試験結果の返却方法の検討と担当教員の選出を行った。

【第3回委員会】2025年3月13日(木)

来年度の監督業務について審議を行なった。清水芳実先生が退任された代わりに来年度から石川一樹先生に委員になってもらうことを確認した。来年度のモニター員を担当する3名の選出と、モニター員を担当する順番を確認した。

下記のスケジュールに従って、説明会、CBT等を実施した

2024年6月24日(月)	受験生への共用試験説明会
2024年7月16日(火)	受験生へのCBTのPC説明会
2024年8月30日(金)	教職員へのCBT体験受験説明会とテストラン
2024年9月6日(金)	CBT体験受験
2024年11月26日(火)	受験生へのCBT本試験説明会
2024年12月26日(木)	教職員へのCBT本試験説明会とテストラン
2025年1月9日(木)	CBT本試験
2025年2月14日(金)	教職員へのCBT追再試験説明会とテストラン
2025年2月26日(水)	CBT追再試験

3) 自己点検・評価

CBTのパソコン等の準備に関して問題はなかった。

4) 今後の対応

2025年度はパソコンがWindows11対応の新しい機種に入れ替えになるので、CBTクライアントも改

定されることとなっている。そのため、次年度はテストランで十分動作確認を行い、問題がないかを確認することが必要である。

監督業務に関して次年度に向けて委員会で確認作業を行い、試験室への不用な物品の持ち込みがないように、電子機器類等は貴重品と合わせて試験室において封筒預かりとし、点検を徹底することとした。

(9) OSCE委員会

1) 委員名

委員長：渡辺 達也

委員：清野 敏一、並木 徳之、小松 俊哉、井手口 直子、濃沼 政美、大西 敦、山本 佳久、丸山 桂司、島崎 学、西川 毅、佐村 優、栗林 和美、伊東 育己、鈴木 正論、中埜 貴文、吉田 貴行、高木 彰子、世永 由里子、建部 卓也

2) 活動概要

【第1回委員会】2024年6月26日（水）

2024年度薬学共用試験 OSCE 実施説明会（2024年6月9日、慶応大学薬学部）に出席し、本年度の実施要領等について説明を受けた。これに基づいて本年度の OSCE 実施の基本計画及び担当を決めた。

【第2回委員会】2024年9月3日（火）

OSCE 試験会場、動線、課題、本部スタッフ、評価者、模擬患者等について実施計画を決め、各担当者が準備を開始した。実施マニュアルは、スタッフ用、評価者用、学生用を作成した。

【第3回委員会】2024年10月22日（火）

OSCE 実施計画等の事前審査書類に対する共用試験センター、モニター員からの指摘・質問事項に対する修正案及び回答を作成した。

【第4回委員会】2024年11月16日（土）

OSCE 評価者養成講習会・OSCE 直前評価者講習会の準備、OSCE 本試験の準備の進捗を確認した。

【第5回委員会】2024年11月30日（土）

OSCE 試験会場設営等準備状況や試験当日の手順について最終確認を行った。

【第6回委員会】2024年12月23日（月）

OSCE 特例追試験会場、動線、課題、本部スタッフ、評価者等について実施計画を決め、各担当者が準備を開始した。実施マニュアルは、評価者用、学生用を作成した。

【第7回委員会】2025年1月16日（木）

OSCE 再試験会場、動線、課題、本部スタッフ、評価者等について実施計画を決め、各担当者が準備を開始した。実施マニュアルは、評価者用、学生用を作成した。

下記のスケジュールに従って、説明会、OSCE 等を実施した

2024年6月24日(月)	受験生への共用試験説明会
2024年11月16日(土)	OSCE 評価者養成講習会
2024年11月16日(土)、11月17日(日)	OSCE 直前評価者講習会
2024年11月19日(火)、11月22日(金)	スタッフへの説明会
2024年11月22日(金)	受験生への OSCE 説明会
2024年11月29日(金)	OSCE 直前模擬患者講習会
2024年12月1日(日)	OSCE 本試験
2025年1月23日(木)	OSCE 特例追試験
2025年2月20日(木)	OSCE 追再試験

3) 自己点検・評価

OSCE の準備に関して、問題はなかった。学外評価者のキャンセル(12名)が多く、学内スタッフへ変更するなどして対応した。OSCE 当日、テストラン時に放送設備に不具合が生じたが、テストラン時間中に対応し、無事終了した。

4) 今後の対応

学外評価者のキャンセルに対応するため、予備要員を含めて評価者を確保できる体制を検討する。放送設備について、事前に動作確認を行い、円滑に放送されるように設定等の確認を行う。

(10) 事前学習委員会

1) 委員名

委員長：島崎 学

委員：清野 敏一、井手口 直子、濃沼 政美、並木 徳之、丸山 桂司、佐村 優、伊東 育己、
栗林 和美、鈴木 正論、吉田 貴行、世永 由里子

2) 活動概要

【第1回委員会】2024年3月5日（火）

- 1) 実習内容とスケジュールを決定した。
- 2) 調剤、無菌、コミュニケーション、フィジカルアセスメントの各領域における業務分担を確認した。
- 3) 実習書の内容を各領域で確認を依頼した。
- 4) 単位習得済みの学生については、個別に呼びかけ早い時期から実習に参加するように促すことを確認した。
- 5) 学生の情報を教員間でできるだけ共有することとした。
- 6) 4月の4年生上級生ガイダンスで、事前学習の内容を説明することとした。

【第2回委員会】第2回2024年4月10日（水）

- 1) 看護合同講義の実施内容と運用について看護学科の教員と打ち合わせを行った。

【第3回委員会】2024年5月30日（木）

- 1) 調剤担当者より実施方法と内容について確認依頼があり、確認を行った。
- 2) 後期に使用する実習書の内容について確認し、8月に印刷し、学生に配布することとした。なお、実習の動画については、各領域においてmanaba上で公開することを決定した。

【第4回委員会】2025年1月31日（金）

- 1) 今年度の運用について、改善点を議論した。
- 2) 現在の前期実習の内容が、後期の実習にあまり繋がっていないとの指摘があった。そのため、次年度の前期実習内容の見直しについて議論した。
- 3) 成績評価に実習内容に関するペーパーテスト、技能に対して実技試験を導入することとした。

3) 自己点検・評価

4月の4年生上級生ガイダンスで、学生に対して事前学習（「アドバンスセミナーⅡ」および「薬学臨床実習Ⅰ」）の内容を説明したことは、実習開始前に内容の把握に一定の効果があつた。実習では外部講師として病院薬剤師、ヘルスケア協会の薬剤師に参加いただいたことで、各領域で必要とする技

能・態度の習得だけでなく、業務内容などの質問する学生や、キャリアプランについて相談する学生も出てきた。単なる薬学共用試験 OSCE のための実習と捉えるのではなく、自分の将来について考える学生や臨床に興味を持った学生が増えたと考えられる。

ルーブリックの評価基準について学生の理解が不十分であることが実習中に判明した。そのため、各領域で教員が学生に対しルーブリックの評価基準について解説したあとに学生が自己評価することとした。実務実習において概略評価でルーブリック評価が導入されているため、学生がルーブリックによる自己評価方法を理解することは重要である。

メンタルの不調などで長期にわたり実習に出席できなかった学生には、薬学部学生委員会と OSCE 委員会と連携をとり対応していく。また、前年度に単位習得済みの学生は薬学共用試験 OSCE 直前だけ参加する学生が多かったが、積極的に出席するように声かけを行った結果、全員ではないが前期から実習に参加する学生も増えた。この取り組みは今後とも継続したい。

4) 今後の対応

4年生の上級生ガイダンスでの事前学習（「アドバンスセミナーⅡ」および「薬学臨床実習Ⅰ」）の内容について説明することに加え、配布資料にルーブリックの評価基準について説明を記載することで、学生に理解を促すようにしていきたい。

前期実習内容については、新たにチーム蘇生、SOAP 記録演習、医薬品調べ演習を導入する予定である。いずれも実務実習では、施設で行う項目であるため、学生には臨床現場での重要性も併せて説明していきたい。実習に関する基礎知識についてはペーパー試験を導入する。実技に関しては講義内で実技の習熟度を確認していたところを実技試験として導入することとする。後期の実習開始前に委員会で各試験の運用方法を再度確認する。

学生がメンタルの不調など長期にわたる既往がある場合には、薬学部学生委員会と OSCE 委員会と連携をとり、事前に対応方法を検討しておく。また、単位習得済みの学生への対応は今後も継続する。

(11) 実務実習委員会

1) 委員名

委員長:清野 敏一

委員:小原 道子、濃沼 政美、島崎 学、丸山 桂司、山本 佳久、渡辺 達也、佐村 優、
山元 健太、伊東 育己、金 憲誠、栗林 和美、鈴木 正論、中埜 貴文、高木 彰子、
建部 卓也、吉田 貴行、世永 由里子

2) 活動概要

【第1回委員会】2024年12月12日(木)

2025年度実務実習全体説明会の実施計画について検討し、確認を行った。また、実習施設への資料送付の準備を行った。

【第2回委員会】2025年3月18日(火)

2024年度「薬学臨床実習Ⅱ」成績について説明があり、承認された。また、2024年度実務実習終了後学生アンケート結果及びトラブル事例について説明があり、次年度に向けて、学生へのガイダンス、実習施設との連携など改善策について検討を行った。

2025年度実務実習施設の割り振り、全体説明会、実習成果報告会スケジュールについて確認した。

3) 2024年度 実習の実施概要

平成25年度改訂薬学教育モデルコアカリキュラムに準拠した「薬学実務実習に関するガイドライン」に基づき、以下の3つの実習区分で実務実習を行った。

- ・実習期間：Ⅰ・Ⅱ期 2/19～8/4 Ⅱ・Ⅲ期 5/20～8/4 Ⅲ・Ⅳ期 8/19～2/9
- ・実習生：150名
- ・実習施設：薬局140施設、病院71施設（独自65施設141名、調整機構6施設9名）

これまで各期に原則として3回の実習施設訪問を行ってきたが、薬学教育協議会の案をもとに各期に原則として3回実習施設に電話連絡又は必要に応じて訪問を行うことに変更した。電話連絡に加え、メールやWebツールなどを活用し、問題なく施設と連携して実習が行われた。実務実習成果報告会を2025年3月1日(土)に実施し、全実習生が実習を終了することができた。

また、2025年度に向けて、2025年2月1日(土)に実習受け入れ施設対象に「2025年度実務実習全体説明会」をオンライン形式で実施した。全体説明会にて2名の指導薬剤師に実習の実例について講演して頂き、より質の高い実務実習に向けて情報共有を行った。2025年2月7日(金)に新5年生への実務実習ガイダンスを実施した。

4) 自己点検・評価

実務実習進捗ネットワークツールの動作や実務実習計画書の作成、概略評価の状況など「薬学実務実習に関するガイドライン」に基づき、概ね順調に実習を行えた。

5) 今後の対応

実務実習進捗ネットワークツールへのコメント入力など担当教員の臨床教育に対する意識の共有、施設との連携体制の整備を行い、円滑に OBE に基づいた実務実習が行えるように作業を進めていく。

(12) 卒業研究委員会

1) 委員名

委員長：高橋 美樹子

委員：平 郁子（副委員長）、八代田 英樹、山本 佳久、磯田 勝広、小川 裕子、後藤 芳邦、鈴木 達彦、中埜 貴文、高木 彰子、戸田 雄大

2) 活動概要

【第0回委員会（2023年度第4回）】2024年3月27日（水）

2024年度に向けた検討

- ・ 6年生：卒業研究発表会等の日程案、抄録集を紙媒体ではなくオンラインで配信する案を検討した。
- ・ 4年生：卒研関連日程、配属決定方法等について検討し、概略を決定した。

【第1回委員会】2024年5月24日（金）

- ・ 6年生：卒業研究抄録集を編集し、PDFファイルとして卒研委員会のOneDriveに保存し、リンクをmanabaに公開することにした。卒業研究発表会の詳細と副査案を決定した。
- ・ 4年生：配属順位の決定方法、教員への個別研究テーマ・募集人数・面談日アンケートと研究紹介動画（mp4）収集、及びこれらの学生への発表方法と日程を決定した。

【第2回委員会】2024年6月18日（火）

- ・ 4年生：研究テーマと配属枠、面談日程、各学生の配属順位と個別研究と一般研究の種別を決定した。

【第3回委員会】2024年12月6日（金）

- ・ 6年生：「卒業研究」の成績について、シラバスに記載した成績評価方法に従って各学生の成績案をまとめた。
- ・ 卒業論文、抄録の電子ファイル保存について：複数の保存方法として卒研委員会のOneDriveとCD-Rに保存し、加えて次年度に卒研委員会としてノートPCと外付けHDDも備えることにした。
- ・ 2025年度へ向けて：4年生の卒業研究について個別研究・一般研究の区別のない配属方法を検討した。

3) 自己点検・評価

- ・ 4年生の卒業研究配属に関しては概ね順調に進められた。
- ・ 卒業研究発表会に1年生全員が参加することになったため、会場のポスターボードの背後のスペースを例年よりも広めに設定したところ混雑・混乱なく実施できた。
- ・ 今年度から抄録集を紙媒体からオンラインで閲覧する形式に変更した。研究内容に特許等が関わる例もあるため、ダウンロード・印刷不可、閲覧のみ、公開期間限定という設定にした。概ね

問題はなかったが、後に5年生から抄録を考える参考に読みたいという要望があり、一部再公開した。

- 卒業研究の成績登録について、項目が多いため入力もれなどが散見され、チェックして各教員に依頼を出すなど成績集計に時間がかかるので、改善が必要と考えられた。

4) 今後の対応

- 抄録集は、5年生の次年度にむけた抄録準備と4年生の卒研配属の参考として閲覧期間は長めに設定することにする。
- 4年生の配属方法の変更については、ユニット配属形式への具体的な案を早急にまとめる。
- 卒業研究の教員による成績登録について、manabaの1画面1項目ではなく、1画面で複数項目入力できるような簡便化を検討する。

2024年度「卒業研究（4年）」講義日程

回	日時			教室	担当教員	項目
	月日	曜日	時限			
1	4/8	月	5	529	後藤	研究の意義と目的（実験系）
2	4/15	月	4	529	濃沼	研究の意義と目的（社会系）
3	4/22	月	4	529	菊地	研究倫理
4	4/26	金	4	529	鈴木英、濱田	研究実践の基礎（実験ノートの書き方）
5	5/9	木	3	442	高橋、高崎	遺伝子操作・改変と法規制、動物実験と法規制
6	5/13	月	5	529	磯田	化学物質の取り扱いと法規制
7	5/24	金	4	602	山本伸、大西	研究実践の基礎（文献検索の実際、学术论文の基本）
8	6/26	水	5	529	卒研委員、部門長	卒研配属説明、一般研究紹介・面談
9	7/2	火	4	529	複数ユニット	個別研究課題について説明・面談
10	7/5	金	4	529	複数ユニット	個別研究課題について説明・面談
11	7/8	月	4	529	複数ユニット	個別研究課題について説明・面談
12	7/12	金	2	442	複数ユニット	個別研究課題について説明・面談

6年生卒業研究日程

月日	項目
4月24日（水）	卒業研究発表会の演題名登録締切
5月10日（金）	卒業論文抄録提出締切
6月上旬	副査発表、卒業論文抄録集オンライン配信開始
6月22日（土）	卒業研究発表会
6月30日（日）	卒業論文提出締切

(13) 薬学部FD企画委員会

1) 委員名

委員長：石井 正和

委員：小松 俊哉、井手口 直子、高崎 浩太郎、大野 賢一、伊東 育己

2) 活動概要

【第1回委員会】2024年4月16日（火）

2024年度のFD講演会とワークショップの開催に関して議論した。FD講演会の外部講師は、青山学院大学 教育人間科学部教育学科 益川弘如教授にアクティブラーニングに関する講演を依頼することになった。ワークショップは、学習に課題を抱える学生への支援について2～3グループで、学習相談に関わっている教員にも参加してもらい開催することとなった。

【FD講演会】2024年6月24日（月）

中野キャンパス 225 教室において、青山学院大学 教育人間科学部教育学科 益川弘如教授（教育環境デザイン研究所 理事）に、「学生が主体的に理解を深める対話型の授業設計～学習科学の知見を活かして～」をご講演いただいた。本講演では、アクティブラーニングの手法のひとつであるジグソー法（学習者同士が協力し合い、教え合いながら学習を進める方法）をご紹介していただき、さらに参加型でジグソー法を体験することで理解を深めることができた。

【薬学部ワークショップ】2025年1月24日（金）

「低学年の学力対策について」というテーマで、2グループ（6名／グループ、計12名の教員参加）が、現在どのような課題があるかをKJ法で議論し、解決策を考えた。タスクフォースとして清水俊一先生（教務委員長）と畑春実先生（学修サポート委員会委員長）が参加した。

3) 自己点検・評価

FD講演会は、後期から始まる1年次「アクティブラーニング」に活かすことができたと思われる。ワークショップの実施概要は運営会議、及び教員会議で報告され、本学の薬学教育の課題を教員間で共有することができた。

4) 今後の対応

FD講演会とワークショップを今後も継続して実施することで、本学が抱える問題点を教員間で共有し解決策を考えていく必要がある。ワークショップでテーマとなった学力対策については、具体的な解決策をつくり、早急に実施していくことが求められる。

(14) 習熟度確認試験（実力試験）委員会

1) 委員名

委員長：斎藤 浩美

委員：渡邊 伸一、高橋 美樹子、石井 正和、磯田 勝広

2) 活動概要

習熟度確認試験（実力試験）委員会は、薬学部教務委員会の下部組織として、習熟度確認試験（実力試験）の実施、試験結果の解析、成績管理及び薬学部総合問題集の作成を行った。

実施日程

- ・実力試験（4年生対象）：2024年9月4日（水）・5日（木）
- ・1年次習熟度確認試験（2024年度入学生対象）：2025年3月24日（月）
- ・1～3年次実力試験：2025年3月24日（月）・25日（火）

3) 自己点検・評価

9月の4年生対象の実力試験、年度末の習熟度確認試験及び実力試験については概ね支障なく実施できた。2024年度入学生から新カリキュラムに移行するのにもなって、実力試験の名称は「習熟度確認試験」に変更になった。また、実施方法についても以下の変更を行うことになった。①前後期合わせて実施する。②実施科目は、当該学年及び過年度学年の科目とする。本年度は1年生で実施し、10科目を1つの試験で行った。出席状況や学習進度に課題がある学生に対して、担任からの指導等が必要と思われる。

4) 今後の対応

2024年度入学生から新カリキュラム科目による習熟度確認試験と旧カリキュラム科目で実施する実力試験が並行して進行することになり、問題作成や対象学生の振り分け等の作業が煩雑となるので、混乱なく実施できるよう工夫が必要と思われる。

(15) セミナー委員会

1) 委員名

委員長：菊地 真実

委員：井手口 直子、伊東 育己、小原 道子、山本 佳久、吉田 貴行

2) 委員会開催

第1回 2024年4月10日(水)

第2回 2024年7月9日(火)

第3回 2025年2月28日(金)

3) 活動概要

セミナー委員会は、1～6年次に配置されている「セミナー科目」の授業内容と運用について検討している。

①リフレクション面接

セミナー科目では修得する学修成果を学生が自己評価を行い、教員と振り返りを行っている。これまで成績配布での面談と同時にリフレクション面接の実施を担当にお願いしていたが、コロナ禍で対面での面談が難しくなり、manabaのコメント機能を活用した「オンラインリフレクション面接」を行っていた。2024年度は対面実施を検討していたが、定期試験の結果がUNIPAで公開されることとなり、リフレクション面接のみの対面実施は困難と判断し、「オンラインリフレクション面接」を継続した。振り返りレポートへの担任のコメント入力、形式的となってしまう、限界があるため、対面での面接へと切り替える予定ではあるが、時期を含め今後検討していく予定である。

②「帝京平成大学 25の目標とする力」に関する評価

「帝京平成大学 25の目標とする力」を全学的にセミナー科目で評価することとなった。薬学部においては、各セミナー科目の主担当教員が、大学として定めた目標とする力25個から、3～5個を選択し、セミナー科目を受講することにより獲得を目標とする力を設定し、以下の2つの方法により評価した。

(ア) 学生自己評価

セミナー科目授業開始前と終了後の2回の機会に、学生が5段階(とても身につけている、身につけている、どちらともいえない、あまり身につけていない、まったく身につけていない)で自己評価を行った。2024年度は1～4年生のセミナー科目で行い、すべての科目において、開始前と終了後と比較すると、設定した目標とする力を獲得していることが示された。2025年度においては全セミナー科目で実施する。

(イ) 教員評価

評価ルーブリックを作成し、学生の提出物を評価した。今後、学年縦断的に評価し、学年が上がるにつれて、目標とする力を獲得していくか検討する。

③「アドバンスセミナーⅢ、Ⅳ」におけるタブレット端末の活用推進

「アドバンスセミナーⅢ、Ⅳ」において個人ワーク、グループワークは、タブレット端末の活用を推進している。個人で所有している学生は持参してもらい、所有していない者は大学が所有するタブレット端末を使用している。タブレットによる作業では、グループワークで作成した成果物を、そのままポートフォリオとして保存できるという利点がある。今後、タブレット端末の活用を他のセミナー科目でも推進していくことを検討している。

4) 自己点検・評価

セミナー科目におけるリフレクション面接は全教員にとって、すでに定着している。帝京平成大学25の目標とする力の獲得について、セミナー科目が大きく貢献していることが示されている。タブレット端末の使用は、紙資源を無駄にしないこと、また資料の保存に優れている。

5) 今後の対応

リフレクション面接の方法について、対面実施に向けて今後具体的に検討を進める必要がある。「帝京平成大学目標とする25の力」の獲得状況について、今後学年縦断的に評価していく必要がある。

ポートフォリオは学生にリング式のファイルを購入してもらい、ポケットファイルに資料を収納し、6年間に亘って1冊のポートフォリオファイルを継続して使用するよう指導している。その一方で、すでに授業資料と提出資料の電子化が進んでいるので、ポートフォリオについても電子化を進めるように検討している。

(16) 薬剤師国家試験委員会

1) 委員名

委員長：矢ノ下 良平

委員：伊佐間 和郎、斎藤 浩美、島崎 学、清水 俊一、鈴木 英治、宮崎 生子、山本 佳久、
秋山 晴代、大野 賢一、磯田 勝広、畑 春実

2) 活動概要

【第1回委員会】2024年5月9日（木）

今年度から総括講義の授業方法を、教員による解説中心のスタイルから自学自習と確認試験を組み合わせた方法に変更した。また、5年生の待機演習も同様の方法に変更した。

授業スケジュールを含めた年間予定について、以下の報告があった。6年生前期は授業終了後の7月に9領域総合確認試験を実施する。後期は、授業が10月まで行われ、その後、薬ゼミの講習会が行われる。11月と12月に中間試験、1月に本試験、追再試験を実施する。また、学習を後押しするために、4月の国試過去問試験と9領域総合確認試験の得点率に応じて、中間試験に加点する制度を導入する。

【第2回委員会】2024年7月18日（木）

9領域総合確認試験（7月12日実施）の結果、及び後期の総括講義の授業方法の説明があった。授業方法は前期と同様であるが、学習を深めるために確認試験の難易度が下がらないようにすることが注意点としてあげられた。

【第3回委員会】2024年10月22日（火）

学生の学習状況と健康状況を把握するため、面談を実施することが提案され、模擬試験（薬ゼミ統一模試Ⅰ）の成績で中位と下位の学生（約120名）に対してチューターが面談を行うことになった。

【第4回委員会】2025年1月21日（火）

次年度の国家試験対策について協議した。自学自習と確認試験を組み合わせた方法は継続して行うが今年度の問題点について改善することになった。学生は前日までに提示された演習問題を予習した上で授業に臨む。また、試験名称に関して「9領域総合確認試験」を「中間確認試験」に、「中間試験」を「総合確認試験」に名称変更すること、出題数に関していずれも345問から200問とすることになった。

卒業延期生（6E生）に対する薬ゼミ講習の時間数を増やし、国家試験合格への実力醸成を強化することになった。

5年生待機演習の授業方法も本年度の方法を継続し、自学自習と確認試験を組み合わせた方法を実施する。本年度は、待機期間ごとに7領域の授業を2回繰り返して実施したが、卒業研究の時間を確

保するために授業は1回とし、2回目は7領域の確認試験のみを実施することになった。

3) 自己点検・評価

昨年まで総括講義の授業は、学生に演習問題を解かせた後、教員が解説することを行っていた。この方法の問題点は2つあり、1点目は受け身で受講する学生が多く学習効果が低い点である。2点目は、演習問題は国家試験過去問題から出題されることが多いが、問題数は学生が最低限学習すべき過去問5年分にはならず、不足分は学生の自主的学習にゆだねている状況にある点である。これらを改善するために、今年度から総括講義の授業方法を、自学自習と確認試験を組み合わせた能動的学習法に変更した。110回薬剤師国家験の合格率は約69%であったものの、合格者数は予想数を上回ったことから、変更した学習方法が一定の効果を示したと考えられた。

4) 今後の対応

次年度も、今年度の学習方法を継続する一方、学生の面談回数を増やし学習指導を細やかに行う。また、前期の総括講義に加えて、補習として予備校講習会を実施するなどの対策を行い、能動的学習を補てんしていく予定である。

(17) 薬学教育研究センター運営委員会

1) 委員名

委員長：畑 春実

委員：鈴木 英治、八代田 英樹、島崎 学、高崎 浩太郎、窪田 剛志、加藤 雅和、高木 彰子

2) 活動概要

【第1回委員会】2024年9月10日（火）

学修サポート委員会より2024年度前期における留年生対策（留年生ガイダンス、学修到達度確認白本試験）の実施報告がなされた。学習相談室と合同で後期（2024年10月～11月）に3年生を対象とした補習を実施することが決定された。学習に課題を抱える新入生の支援として、2025年度入学生より新たな入学前教育を実施することが決定された。

3) 自己点検・評価

本委員会では、活動内容の確認のための年一度の委員会の定例開催と必要に応じた臨時に議論を行っている。2024年度は、学修サポート委員会、学習相談室と連携して留年生への支援、学習に課題を抱える学生への支援について取り組みを始めることができた。しかし、依然として連携が取りにくい点が課題として残っている。留年生への支援、学習に課題を抱える学生への支援の重要性、必要性を共有し、体制の強化を図っていく必要がある。

4) 今後の対応

本学における入学生の学力低下、留年率増加、薬剤師国家試験合格率の低下が急速に進む中、留年生への支援、学習に課題を抱える学生への支援が急務と考える。留年生に限らず、留年経験者に対する学修支援体制を整え、学習に課題を抱える学生に対する学修支援強化のための体制づくりを進める。

(18) 学修サポート委員会

1) 委員名

委員長：畑 春実

委員：磯田 勝広、渡邊 伸一、高橋 美樹子、石井 正和、鈴木 英治、八代田 英樹

2) 活動概要

2024年4月3日（水）に上級生ガイダンス、2024年4月5日（金）に新入生ガイダンスに合わせて、1～3年生の留年生を対象とした留年生ガイダンスを実施した。留年生ガイダンスでは、2022年度以前の入学生に対しては、単位修得済科目の再聴講を積極的に促し、2023年度の入学生に対しては、再履修を積極的に促すこととした。2024年4月5日（金）新入生ガイダンス終了後に1年生プレースメントテスト（化学）を実施した。

【第1回委員会】2024年4月15日（月）

1～3年生の留年生を対象に、学修到達度確認白本試験の実施が決定された。ただし、1年生留年生の学修到達度確認白本試験は現役1年生と同時に実施することとした。授業回数8～10回目あたりに、授業の進行に合わせて2024年度版薬学部総合問題集（白本）から出題することが決定された。

3) 自己点検・評価

本委員会は、留年生対策への取り組みを中心に活動している。新しい取り組みとして2024年度より年度始めの上級生ガイダンスと新入生ガイダンスとは別に、留年生を集めた留年生ガイダンスも実施することとした。

2024年度は、薬学教育研究センター運営委員会及び学習相談室と連携して、留年生への支援、ならびに学習に課題を持つ学生への取り組みに力をいれた。しかし、マンパワー不足等が課題として残っている。

4) 今後の対応

本学における入学生の学力低下、留年率増加しており、留年生への支援、ならびに学習に課題を抱える学生への支援が急務と考える。入学生の学力を把握するため、1年生に対してアチーブメントテストを年2回実施することを決定した。本委員会では、留年生に限らず、留年経験者に対する学修支援に取り組み、留年生、学習に課題を抱える学生のための体制づくりを強化する。

(19) 社会薬学教育研究センター運営委員会

1) 委員名

委員長：菊地 真実

委員：小原 道子、濃沼 政美、島崎 学、高橋 秀人、野村 香織（2024.6.30 まで）、

宮崎 生子、渡邊 伸一

2) 活動概要

【第1回委員会】2024年4月24日（水）

- ・ 社会薬学教育研究センター室（219 教室）における備品として学科研究費による購入品の希望を確認した。2023 年度に購入した PC、モニターの使用方法について確認した。
- ・ 卒業研究指導の今後の予定の共有を行った。今後の教員間の情報共有については Teams を活用することとした。
- ・ 社会薬学研究センター内における卒研発表会の日程について検討し、2024 年 6 月 14 日（金）3-4 限に行うことを決定した。

【卒業研究発表練習会】2024 年 6 月 14 日（金）

社会薬学教育研究センター配属の学生による卒業研究発表練習会を開催した。

3) 自己点検・評価

運営委員会の運営方針が不明確であり、2024 年度は委員会の開催が 1 回にとどまったことから、十分な活動ができなかった。

4) 今後の対応

運営委員会の運営方針を明確にし、委員会を年 2 回以上開催する。

(20) 薬育・地域連携委員会

1) 委員名

委員長：小原 道子

委員：井手口 直子、伊東 育己、亀井 美和子、菊地 真実、濃沼 政美、佐村 優、島崎 学、高松 智、中谷 良人、原田 美那、山本 佳久、吉田 貴行、

2) 活動概要

【第1回委員会】2024年7月2日（火）

【第2回委員会】2025年3月13日（木）（メール会議）

①「薬育」の実施について

現在、地域連携部の学生が主体となり、中野区を中心に「薬育」活動を行っている。継続して薬育活動を行うことができるよう、中野区中学校校長会へ「薬育」活動の案内を行った。実績としては、中野区や港区などの小学校2校、中学校5校において「薬育」活動を行った。また、中野区の高等学校（堀越高校）、高齢者施設、小中一貫校、PTAについてそれぞれ1件の「薬育」活動を行った。

②「健康茶房」の開催

「健康茶房」は、地域連携部の学生が主体となり、健康茶を飲みながら学生と地域住民が交流するイベントである。今年度は、中野区よりチャレンジ基金の助成金を受け、多世代交流支援事業として年3回、本学内で開催した。地域住民を含めて各回80人程度が集い、健康に関する講演会も実施され、学生と交流を深めた。

③「四季祭」での活動

地域連携部の学生が主体となり、子ども薬剤師体験・展示ブース・バスボム体験・生薬ハーバリウム・健康茶房・オレンジバルーンフェスタについて活動を行った。学生が主体的に活動を行い、すべてのブースが盛況で終了した。累計2445名の方が各ブースに参加した。

④「第36回薬物乱用防止中野区民大会」への参加

学園祭期間中に開催された薬物乱用防止のポスター、標語に関する優秀賞の表彰式において、地域連携部の学生が「薬育」を披露した。表彰対象者の中学生や保護者、ならびに学園祭に参加した地域住民等に対し、薬の正しい服用方法等についての啓発を行った。

⑤なかのZEROにおける「生薬ハーバリウム教室」の開催

地域連携部の学生が主体となり、中野区こどもカーニバルにおいて、「生薬ハーバリウム教室」の開催した。保護者と小学生以下の児童を対象に参加者を募集し、120名が参加した。

⑥中野区年末ごみ拾いの開催

地域連携部の学生が主体となり、2024年12月27日に中野年末ごみ拾いを実施した。中野駅をスタートし、今年度は高円寺方面に向けてごみ拾いを行った。

⑦子ども食堂「カレーの会」への参加

地域連携部の学生が主体となり、中野区南台にある南中野区民活動センターにて、地域の婦人部が主体となって活動している子ども食堂の活動を、近隣の南中野中学校のボランティア部の生徒と手伝った。子ども食堂には、児童だけでなく高齢者など毎回300人以上訪れていて、学生が配膳、テーブルの消毒、参加者への案内等を行った。

⑧地域高齢者の見守り訪問への参加

宮桃町会の理事と一緒に、地域連携部の学生が地域高齢者の見守り訪問に参加した。主に独居高齢者の安否確認と体調の変化などについて声がけを行った。

3) 自己点検・評価

地域連携部の活動を中心に、各担当教員がそれぞれの役割を持ち、本学の地域活動に貢献できた。例年、低学年の参加が少ないため、学年を横断したつながりの場を持つ必要性を検討している。

4) 今後の対応

中野区との連携を一層強化し、活発な地域活動ができるよう学生への支援を推進する。また、学生は薬学部以外の学部生でも参加可能なため、他学部との連携のあり方について模索していきたい。

(21) 薬学臨床教育研究センター運営委員会

1) 委員名

委員長：清野敏一

委員：清野 敏一（実務実習委員会委員長）、島崎 学（事前学習委員会委員長）、渡辺 達也（OSCE 委員会委員長）、伊東 育己（実務実習委員会、東京都薬剤師会実習委員会大学委員）

2) 活動概要及び今後の対応

【第1回委員会】2025年3月18日（火）

1. 薬学臨床教育研究センターが管轄する、事前学習委員会、実務実習委員会、OSCE 委員会の現状報告ならびに問題点と今後の予定を議論した。

(1) 事前学習委員会

臨床現場での参加・体験型実習に対応できる能力を身につけることを目的に、学生に主体性を持たせ、基本的な技能・態度を修得できるように確認と実践を繰り返し実施する。臨床現場で活躍する薬剤師（外部講師）に参加いただき、臨床現場での目標を意識したより実践的な実習を促進させる。看護学科との連携教育の充実により多職種連携能力の向上を図る。また、来年度より実習に加えてペーパーテストも実施することとした。

(2) 実務実習委員会

学生の希望を考慮し、実習施設への適切な割振り調整を行い円滑な決定を目指す。前年度に問題があった事例を検討し対策を講じる。特に東京都薬剤師会のトラブル事例検討ワーキンググループにおいて他大学との情報の共有を図る。教員及び実習施設の指導薬剤師への薬学実務実習ガイドラインならびに本学の実務実習の実施方針・体制、学生の指導の在り方を十分に周知し、教育連携の強化と学生の修得度の向上を図る。

次年度も実務実習終了後には、実習施設の指導薬剤師を招いて成果報告会を開催し、学生の振り返りを図り学生の修得度の向上並びに実習施設との教育連携につなげる。充実した実務実習が行えるように実習施設対象の全体説明会において、より良い実習事例の紹介を通じて、実習施設との連携強化を図る。

(3) OSCE 委員会

OSCE の円滑な実施のための体制を構築し準備と運営を行う。評価者に対して事前の説明を丁寧行う。また、外部評価者の人員確保のためにも本学出身者との連携を図る。特に、評価者として必要な実務経験年数については従来の5年から3年に変更し、評価者の確保を図る。実施後に実施内容及び体制について検証し次年度に向けて再検討を行う。

OSCE トライアルについて、今後 R4 改訂版コア・カリに準じた新規課題 20 題が作成されたため、運用について再度検討する。

2. その他（医療・教育における他職種団体との連携強化）

薬剤師業務に関わる研修会等を東京都薬剤師会と協力して主体的に開催し医療・教育分野における連携を強化し、学生の教育に活かすとともに地域住民の健康の維持・向上に貢献する。薬学教育協議会の認定実務実習指導薬剤師養成事業に関して地域薬剤師会とともに積極的に協力し、大学と実習施設との連携を深め学生実務実習の環境整備の向上につなげる。

(22) 薬学部 IR 委員会

1) 委員名

委員長：小林 秀昭

委員：大西 敦、中谷 良人、八代田 英樹、池本 守、平 郁子、鈴木 正論

2) 活動概要

【第1回委員会】2024年4月10日（水）

2023年度の成績分析結果を報告した。委員会の目的、教学 IR 情報の収集項目、当面の課題と分担について協議した。

【第2回委員会】2024年5月13日（月）

定期試験問題や成績データの収集を報告した。2023年度薬学部薬学科「学修行動と学修成果の調査」分析結果について協議した。新入生のアチーブメントテスト結果、「学習に関する」アンケート結果、3ポリシーや薬学教育第三者評価基準に関連した資料の収集について協議した。

【第3回委員会】2024年8月1日（木）

学外模擬試験成績データなどの収集を報告した。試験問題に対する点検内容、第三者評価項目からみた収集項目、成績関連資料の収集項目について協議した。今後の委員会の活動方針として、委員会独自の視点による IR 分析、本委員会以外からの依頼分析の2本立てとすることにした。

3) 自己点検・評価

薬学部試験委員会と薬学部検証委員会を母体として、2024年度に薬学部 IR 委員会が発足した。これまでに教学データの体系的な収集と分析が十分にはなされていなかったため、本格的に実施するための体制構築を目指した。2024年度は資料の収集項目について見通しを立て収集を開始した。今後は分析について本格的に実施していきたい。

4) 今後の対応

教学データの質的・量的な解析は、教育プログラムの改善・向上に不可欠であり、修学状況、試験結果の検証及びディプロマポリシーの達成度の評価を中心に解析を行っていく。2025年度は薬学教育第三者評価に向けての資料の収集と分析の対応が中心となる予定である。

(23) 研究安全委員会

1) 委員名

委員長：小川 裕子

委員：小松 俊哉、名取 威徳、平 裕一郎、島崎 学、西川 毅、濱田 和真、赤木 祐介、清水 芳実

2) 活動概要

【第1回委員会（定例）】2024年8月2日（金）～16日（金）（メール会議）

2024年度の活動内容を確認した（活動内容は前年度3月の会議で決定済）。安全衛生講習会の候補日程を決定した。前年度から開始した消防署協力の防災訓練について、より専門的な内容で実施が可能かを検討することになった。

【第2回委員会（臨時）】2025年3月21日（金）～28日（金）（メール会議）

2025年度の活動内容を検討し、担当者を決定した。防災訓練については、来年度より対象を4年卒研究生とし、卒研配属決定後の9月～10月に安全衛生講習会（新規）と組み合わせて行うことになった。

【安全衛生講習会の開催】

定期講習会（教員）

開催日：第一回 2024年4月15日（月）、第二回 5月9日（月）

出席者：実験に従事する教員、第一回 54名、第二回 6名

新規講習会（教員）

開催日：2024年4月15日（月）

出席者：実験に従事する教員（新任）、3名

新規講習会（4年生）

開催日：第一回 2024年9月13日（金）、第二回 9月24日（火）

出席者：実験に従事する卒研究生、第一回 52名、第二回 1名

【総合防災訓練の開催】

開催日：2025年3月3日（月）

出席者：実験に従事する教員 22名、職員 7名、4年生 16名

3) 自己点検・評価

本委員会は活動内容の確認のための年一度の定例委員会及び、審議事項が発生した際の臨時委員会を行っている。2017年度以降、実験に関連する事故の報告はないが、教職員及び学生の安全への意識を高めるために、中野消防署の協力による防災訓練（第二回総合防災訓練）の内容を検討し、学部内の

取りまとめを行った。2019年度には消防署から危険物保管量の超過を指摘されたが、少量危険物貯蔵取扱所の設置を行い、試薬保管量を検討しており、保管量の超過は解消されている。他にも日常の実験室での安全管理に関わる活動（ドラフト点検、重量物の固定、等）を行っており、研究の安全環境の維持を図っている。

4) 今後の対応

労働安全衛生法の改正により、個別の化学物質に対する自律的な管理が求められるようになったので、対策を行っていく。教員の安全意識の向上を図るため、防災訓練に毎年参加するように周知していく。

帝京平成大学 薬学部年報 2024

2025 年 12 月 20 日 発行